

大阪薬科大学報

30

大阪薬科大学広報委員会

1994年(平成6年)6月10日発行



薬用植物（表紙写真）の紹介

シャクヤク (*Paeonia lactiflora* Pallas) (ボタン科)

立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花。美人の形容に使う言葉である。この中で、芍薬と牡丹の形容は生薬の薬効に通ずる。気が立ってイライラする時は芍薬、漢方でいう瘀血症で下腹部が痛み、座り込む時は牡丹皮が効くという。

中国伝来の医学（漢方）は江戸時代にわが国独自の進歩をとげた。その1つが腹診で、腹部の状態を診断する。へそが立っていれば芍薬が効き、へそが縮んでいれば牡丹皮が効くと教えている。へそが立つとは仰向けに臥す時、へそが天井ではなく、顔の方へ向くことを意味する。昔の女性は骨盤内の臓器に血液が留まり、その分上半身の血行が悪く、顔は色白で、手が冷たかった。刺激が多い社会に住み、頭を使う機会が増えた現代女性は、血液が上半身に片寄り、血色が良く、手が温かく、気が立っている。その分下半身が冷える。芍薬は全身の血行を改善し、健康回復を促すもので、まさに現代女性の薬である。

芍薬の芍は媒約、晩酌に通ずる。媒約は男女の縁を結ぶことであり、酒の酌は神と人の結び付きを仲介するという意味である。芍薬は女性を健康で温和にし、男女の仲を結ぶ薬という意味が込められている。

植物のシャクヤクはボタン科の多年草である。ボタンが落葉亜低木で、春に枝から芽が出るのに対しシャクヤクは草本で、春に地中の根から芽を出す。ボタン科の植物の花はがくが葉状に変形し、花卉は長卵形で美しい。主に花の構造が類似することからキンポウゲ科ボタン属に分類されてきたが、幾つかの特性がかけ離れており、特に受精卵から胚形成の過程が双子葉植物では他に例を見ないことからボタン属はボタン科として独立した。

シャクヤクの含有成分もキンポウゲ科植物と違っている。ペオニフロリンおよび関連成分はボタン科独特のもので、酸化の進んだピナン系モノテルペン

配糖体である。その薬理効果は鎮痙、鎮静、鎮痛作用を中心とするものであるが、この種の合成薬に比べ効力は弱い。それでも、抗炎症性や抗凝血症などの効果および他の成分によるプロゲステロンやテストステロンの体内動態への影響などと相まって、ストレスによるイライラを鎮め、疼痛などを除くのであろう。芍薬に甘草を配合した芍薬甘草湯ははげしい痙れんを鎮める。薬理効果の弱い芍薬を配合した漢方薬と一緒に使う他の生薬によって、強力な効果を示す例である。シャクヤクにはタンニンも多量含まれ、血中尿素窒素の量を減らすと共に、体調を崩す原因の1つであるラジカルを消去する。シャクヤクの成分が腸内微生物によって変化を受け、より活性の強い成分に変化することも話題になっている。

芍薬はシャクヤクおよび数種の近縁種の根を調製した生薬であるが、葛根湯、桂枝湯、桂枝茯苓丸、四物湯、十全大補湯、小青竜湯、加味逍遥散、小柴胡湯、大柴胡湯、当帰芍薬散など重要な漢方薬に配合される。実母散やルビーナなど名の通った家庭薬にも配合される。芍薬だけを使う薬はない。しかし、芍薬に代わる生薬もない。

シャクヤクは中国東北部から東シベリア、朝鮮半島が原産地で、わが国へは漢方伝来と共に伝えられたと思われる。各地で栽培され、品種も多い。観賞用の栽培品種も多いが、それらの中には主成分のペオニフロリンを多量に含むものがあり、薬用としての価値が見直されるものもある。

シャクヤクの仲間ヨーロッパにもあり、てんかん、婦人病、片頭痛、黄疸、痔疾、関節炎、痛風、喘息などの治療薬として用いられる。その利用法はシャクヤクとボタンを一緒にしたようなものである。ボタンの含有成分はシャクヤクに似ているが、多量のペオノールおよびその配糖体が際立っている。ペオノールはアスピリンに似ており、血小板凝集抑制を中心とする薬効を示し、瘀血（静脈血の滞り、微小循環障害）を改善する。

学名が物語るように、シャクヤクは乳白色花が基本であるが、紅色花も多い。その豪華な花を愛でながら、その深遠な薬理効果に気付いた昔の人達の感性に思いを馳せてみた。

（写真・文 教授 草野源次郎）

目 次

薬用植物（表紙写真）の紹介	草野 源次郎
薬学を学ぶことに誇りを持つ	学 長 久保田 晴 寿… 2
新入生へのメッセージ	教務部長 千 熊 正 彦… 3
新入生を迎えて	学生部長 森 逸 男… 4
就職部長就任にあたって	就職部長 稲 森 善 彦… 5
惜別の辞—薬大を去るにあたって	井 上 正 敏… 6
井上教授最終講義によせて	石 田 寿 昌… 6
研究室だより 第1薬剤学教室	西 野 隆 雄… 8
機器紹介 高性能二重収束質量分析計	9
細胞自動解析システム	10
教育用コンピューターシステム	10
図書館だより	11
市民講座の開催	12
平成6年度学校法人予算について	事務局長 河 野 光 次… 13
新カリキュラム発足について	千 熊 正 彦… 14
教務課だより	15
学位授与	18
第79回薬剤師国家試験結果	19
学生課だより	20
人事異動	21
施設課だより	22
卒業式・入学式	23
行事予定	23
平成6年度各部・委員会・委員	24
教員研究業績一覧（1993年）	26
新和会だより	35



薬学を学ぶことに誇りを持つ

学 長 久 保 田 晴 寿

新入生の皆さんを大阪薬科大学および大阪薬科大学大学院薬学研究科に迎えることができましたことは、本学にとりまして大きな喜びであり、大阪薬科大学を代表して心から歓迎いたします。

さて、学部入学の皆さんは、これから大阪薬科大学学生として勉学を続けることになります。そこで、先ず大学での勉学について述べてみたいと思います。

大学はヨーロッパ中世の発明と言われます。当時の大学では、教養諸学の教育が主で、授業はすべてラテン語で行われていました。地動説を唱えたガリレオや万有引力を発見したニュートン等によって行われた、17世紀の科学革命はすべて大学の外で行われました。このころ、薬剤師は集まってギルドすなわち、同業組合をつくり、後継者を養成していました。薬をつくる場所であった薬局は、化学の実験室にもなりました。優れた薬剤師のいる薬局には、化学に興味を持つ若者が集まり、薬局は多くの化学者を育てた揺籃となりました。

実験科学に関する大学教育はフランスで始まり、19世紀の初めにドイツで花開いたと言われます。そのパイオニアはユストゥス・フォン・リービヒであります。リービヒは1806年、ドイツのダルムシュタットの薬局の家に生まれ、南のヘッペンハイムの薬局の徒弟になりますが、化学実験に興味を持ちすぎ、余り真面目に働かなかったので、10カ月で親元に送り返されてしまいました。

その後、リービヒはフランスのゲイ・リュサックのもとで学び、大学での化学教育は講義と実験の二つで支えられるべきだと考えて、ドイツのギーゼン大学の教授に就任してから、1826年に化学の大実験室を作り、ヨーロッパ各地から有能な若者をこの

小さな大学に集めました。この世界で最初の体系的な化学教育が、大学に科学的精神を導入する端緒となりました。皆さんが本学で受ける講義と実験を二本柱とする薬学の教育も、この時から始まったのです。

ある日、ギーゼン大学の講義室で、リービヒ教授は学生を前に化学の講義を行っていました。化学専攻の友人に連れられて来ていた法科の学生ホフマンは、その講義にすっかり魅せられて化学専攻に変わってしまいました。このホフマンは長井長義を通じて、日本の近代薬学にも大きな影響を与えました。

わが国の近代薬学の草分けは、東京大学の教授となり、日本薬学会の初代会頭となった長井長義先生であります。阿波、蜂須賀藩の医者であった長義は、明治の初めに第1回の海外派遣留学生としてドイツに派遣され、医学を学ぶためにベルリン大学に入学いたしました。そしてホフマン教授の化学の講義に感銘を受け、化学実験に魅了され、医学修学の目的を化学に変えて、ホフマン教授のもとで勉強しました。ホフマンがリービヒに影響されたのによく似ております。

教育は教える側と教わる側の信頼関係がなくては成立しません。教員が幾ら一生懸命教えようとしても、学生に目的意識や学ぶ気がなければ、何の成果も上がりません。ホフマンも長井も教えられ方が非常に上手であったと言えます。

大学は今、科学技術の急激な進歩、社会状況の変化などにより、19世紀以来の伝統的な古い教育制度が社会から問われ、カリキュラムや教育法の改革の実現が求められています。さらに薬学教育においては、平成4年医療法の改正により、薬剤師が医師、

歯科医師、看護婦とともに医療の担い手として医療の質の向上に寄与すべき責任が課せられたため、薬剤師教育を充実しなければ、今後の医療の激変に対応できないと、教育改革を求める声が高まりました。本年創立90周年を迎える古い伝統を有する本学においても、新しい時代に適合する薬学教育のあり方、カリキュラムについて、慎重に検討してきましたが、本年度入学の皆さんから抜本的に改正したカリキュラムによる教育を実施することに致しました。

薬学は基礎学として生物系、物理系、化学系の基礎を必要とするライフサイエンスに係わる総合的な学問であります。そして薬学出身者は医療の担い手としての役割を果たす薬剤師として働くほかに、医薬品の創製、製造、供給のみならず、保健衛生等の人の健康にかかわる広い分野で活躍しております。

医師と薬剤師の職能の独立性を確立する医薬分業は、ヨーロッパでは700年の歴史がありますが、分業後進国といわれるわが国でも、最近急速に進み始めました。アメリカのギャラップ調査によると、アメリカの社会で信頼される専門職の第1位は薬剤師で、聖職者、大学教授、医師等より上位にあるといえます。

皆さんはこのように、薬学が人類の福祉に貢献する重要な分野として社会的に期待されていることをよく認識して、薬学を学ぶことに誇りを持っていただきたい。春爛漫のさなかに、満開の桜に迎えられた皆さんは、今ピカピカに輝いています。この感激を忘れずに、皆さんが本学及び本学大学院で、大切な青春時代に悔いを残さない、充実した学生生活を送られるよう期待いたします。

新入生へのメッセージ

教務部長
教授 千熊 正彦



難関の入学試験を見事に突破され、90年の伝統をもつ本学に晴れて入学された皆さん、ご入学を心よりお祝い申し上げます。永かった受験勉強から解放されたいま、希望に満ちた大学生活をスタートされ、新しい飛躍を目指しておられることでしょうか。皆さんには、この機会に薬学を勉強する決意を新たにさせていただきたいと希います。

1989年のギャラップ調査によりますと、米国の国民が正直で倫理基準の高い職業と考えているのは、第一位が薬剤師で、第二位聖職者、第三位大学教員、以下医師、歯科医師となっているそうです。この結果は、米国の薬剤師が社会の期待に応じて真面目に

努力していることを私達に教えてくれます。

一方、日本では、平成4年の改正医療法の中で、薬剤師が医療の担い手であるということが明確に規定されたことに伴い、厚生省は平成8年からの薬剤師国家試験の出題内容を再編成しようと計画しています。また、薬学を6年に延長しようという提言もあり、薬学教育は、医薬分業や薬剤師の病棟進出の増加などの社会的背景からエネルギーを得て、激動を始めています。このような時代であるからこそ、なぜ薬学を学ぶかという目的意識を明確にさせていただきたいと願います。

そもそも薬剤師の資格が免許制になっている理由は、職務内容が人の生命に直接関わるため、大学時代に真摯に勉強をした人にもみ薬剤師になってほしいという社会の期待があるからでありましょう。そして、薬剤師になることができるのは薬系大学の卒業生に限られているということの重要性を、これから薬学を勉強される皆さんにもいま一度噛みしめてほしいと思います。薬学生の特権は、社会の信頼に依って真面目に勉強し、国民の支持を得てはじめて許されるものでしょう。新入生の皆さんも4年後には、薬剤師国家試験に合格され、晴れて薬剤師の免許を授与されることとなるでしょうが、それにふさわしい努力を在学中から続けてほしいものです。卒業後の皆さんは大学時代に勉強していようとしまい

と、薬学の専門家とみなされます。学生時代に勉強しませんでしたので……という言い訳は決して通用しないのです。

高度に進歩した科学技術社会の成果を享受する私達にとって最も大切なのは健康であり、それに直接関連する創薬、薬物の体内動態や作用機構、薬の適正使用、環境衛生などを含む薬学は幅広く、すべてを修得するのは並大抵のことではありませんが、多くの科目が皆さんにとって魅力的であると思います。伝統と実績をもつ本学の講義や実習は、きっと皆さんに大きな刺激を与えることでしょう。大学での授業に対しては受身で習いっばなしではなく、講義や実習から得た知識や経験を基にして自主的に幅広く勉学する習慣を身につけてほしいと願います。わからないことがあれば、先生や先輩に尋ねたり、あるいは本学図書館を利用して理解を深めて下さい。毎回の授業の内容については、入学時に配ら

れた小冊子、“授業の内容”を、また、学生生活全般にわたっては、“学生の手引”をよく読んで下さい。“授業の内容”には授業年間計画や各教員の授業の方法などが丁寧に記載されています。講義や実習の履修に関して、判らないことがあれば、事務局教務課（高橋課長、福永係長、三角、斉藤各課員）、アドバイザーの先生あるいは教務委員（加藤助教授、馬場助教授、松村（靖）助教授、土井（光）助教授、西野講師及び私）まで遠慮なく問い合わせして下さい。

また、本学には多くのクラブがあり、教員、職員、先輩、後輩の交流がクラブ活動を通じても活発に行われています。クラブ活動を通じて、勉学だけでは得られないよき友人を見だし、また奉仕の精神を学び取っていただきたいと思います。

最後に、新入生の皆さんが健康で、充実した大学生活を楽しまれることを心よりお祈り申し上げます。

新入生を迎えて

学生部長 森 逸男
教授



新入生の諸君、御入学お目出とうございます。学生部を代表して心よりお祝い申し上げます。明るく、新鮮でファイトに溢れる多数の新入生諸君を迎えることができましたことは、教職員一同の大きな喜びであります。

新入生の諸君は、自ら進んで非常に難関な医療に直結した薬学を学ばれることになりました。周知のように薬学は健康、医療、環境衛生面など、人類の福利厚生が多方面に跨がって貢献する学問であります。これからの高齢化社会時代を迎えるこの時、入

学された諸君の責任は非常に重大で、今後大いなる活躍が期待されます。いま、大学もまた、大転換期を迎えています。本学でも本年度より新しいカリキュラムの導入がなされ、従来の学生便覧、教授要目を一新した“学生生活の手引”および“授業の内容”を発行してみました。新入生諸君のこれからの学生生活ならびに教育研究を進めるに当たっての諸項目が、生活の手引、授業内容のシラバスとして紹介されております。

新入生ガイダンスを経てもう2週間、これら手引、授業内容を参考に一刻も早く、大阪薬大に溶け込み、諸君のファイト溢れる新風を大学に導入してみてください。言うまでもなく、大学生活は集団、グループで運営される面が多々あり、個人の身勝手さは許されません。各クラブ、グループでの規律を守り、自分に与えられた仕事を全うしながら、相手を思いやるゆとりもなければなりません。社会生活の基本ともいえる挨拶することを、先づスタートに、新入生諸君の若きエネルギーを噴出して下さい。

学生部は微力ながら学生諸君と大学とのパイプ役としての職務を惜しむものではありません。一刻も早く薬学の道に馴染み、充実した学生生活を送らんことを切望します。

就職部長就任にあたって

就職部長
教授 稲森善彦



バブル経済が崩壊し、不況の波が否応なしに薬業界にも押し寄せてきております。この就職難の時期に、本年4月より2年間就職部長を担当することになりました。その責任の重さを痛感している次第です。

大学院進学希望者あるいは就職を希望しない人は別として、ほとんどの学生諸君の就職活動はこれからです。就職は人生にとりまして最も大切な転機で無関心な人はいないものと考えます。それだけに慎重になり過ぎたり、迷ったりする学生諸君も出てまいります。私共就職部委員は指導とアドバイスにより、希望就職先に一人でも多く決定しますと同時に、

求人先に御迷惑をかけないように努力してまいります。

卒業生の進路状況（平成5年度就職進学内定状況）は下表のように、この就職難の時期にしては好成績となっております。これは前部長栗原拓史教授の精力的、且つ献身的な御指導・努力の結果であり、心から敬意を表する次第です。しかしながら、先にも述べましたように、不況の上に、薬価切下げなど本年度の就職は決して楽観は許されません。したがって、この就職難を克服するためには勿論私共就職部委員も応援いたしますが、学生諸君各人が前向きな姿勢で頑張ってくださいより他に道がありません。私が以前学生部長時代に『明るい薬大生活を送るように』と学生諸君に要望し、強調しましたが、このことは就職活動にも通じると思います。学業成績の良いことは無論要求されますが、明るく、協調性に富み、撻挨の出来ることが最も大切だと思います。その上、周囲の人々のアドバイスを素直に聞き、人から好感の持たれる人が要求されると思います。これらは平素から培われるものであって急に出来るものではないのです。学生諸君もどうかこれらの点を念頭におき、悔いのない充実した就職活動を行って下さい。一人でも多くの学生諸君が第一希望の就職先への内定がかなえられますように、微力ですが、努力してまいりたいと思いますので、御支援・御協力を賜りますよう何卒お願い申し上げます。

平成5年度就職・進学内定状況

(平成6年3月19日現在)

	男		女		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
薬業関連会社（営業）	22人	28.5%	17人	11.6%	39人	17.4%
（研究・品質管理）	4	5.2	36	24.4	40	17.8
マスコミ	0	0.0	1	0.7	1	0.5
薬局小売	4	5.2	5	3.4	9	4.0
病院・診療所	4	5.2	40	27.2	44	19.6
研修生	3	3.9	12	8.2	15	6.7
公務員	3	3.9	13	8.8	16	7.2
大学職員	0	0.0	1	0.7	1	0.5
進学（大学院）	33	42.9	12	8.2	45	20.0
就職未定者	4	5.2	10	6.8	14	6.3
計	77	100.0	147	100.0	224	100.0

惜別の辞

薬大を去るにあたって

教授 井上 正 敏



お水取りも終り、身辺に春の息吹きを感じられる今日此の頃です。この好季節に無事退任の日を迎える事が出来た幸せをかみしめています。ふり返りますと43年という長い年月も一瞬の出来事のように、また映画の一齣一齣のように思い出されます。毎年多くの新生を迎え一方では卒業生を送り出す、正に人の出会いと別れのくり返しでした。薬大一回生の入学の年、25年4月に無機化学教室に助手として就任しました。当時は終戦間もなくのことであり日本中が疲弊の最中にあり殆んど無からの出発でした。ただ薬大は戦災にあっていなかったため薬品は多少ストックがありましたが、器具らしい器具も無く、またその頃の薬大にはまだガスが引かれていなかったため、助手の大事な仕事の一つは電気ヒーターのニクロム線の取換えでした。昭和29年に衛生教室に移り、さらに43年に物理化学教室に移ったわけです。この頃から日本の国力、技術力も急激に上昇し始め、薬大の機器類も急速に充足して来ました。現在、薬大のX線解析はスタッフ、装置共に他に比べて遜色の無いものになりました。

そしてまた人生には“袖振り合うも多生の縁”という言葉がありますが43年の間には多くの人達との出会いがありそこに縁が生じ、現在も多くの方々とお話しさせて頂いています。

いずれにしましても私がここまで無事に任務を終えることの出来たのは同じ薬大で御一諸に働く事が出来ました教員、事務職員、学生諸君始め多くの人達の御支援の御陰であると思っております。

多分、多少感傷的な心を抱きながら月末に永年通いなれた学舎を去ります。私の生涯を通じて大阪薬大の益々の発展と皆様方の御健康、御多幸をお祈りしてお別れの言葉と致します。有難う御座いました。

3月末日



井上正敏教授最終講義によせて

教授 石田 寿昌

2月28日(月) 本学31教室において、「43年間を顧みて」の演題で、井上先生の最終講義(午後2時～3時)が執り行われました。

大正15年11月の誕生から現在までの先生の心に残った思い出を時代の変遷とともに軽快なテンポでお聞かせ頂きました。先々が奉職された昭和25年は、本学が大阪薬科大学としての設置認可を受け、本格的な大学教育がスタートした年でもありました。当時の教育研究環境は厳しく、実験の熱源として使用される電熱器の修理が日課であったことは印象的でした。そして、現在の、充実した大学への発展を、先生の生涯のライフワークであったグリセロリン酸カルシウムの構造解析研究の進展と折り混ぜながら講演されました。とりわけ、先生が苦心を重ねた末に、手作りの熱分析装置を試作され、世界に先駆けて医薬品の構造多形を発表されたことは特筆されるべき研究成果であったと思います。さらに超強力X線発生装置を線源としたX線粉末回折測定による生薬成分の定量分析方法の確立は、当時、多くの研究者によって注目されました。先生は、私立大学研究設備整備費補助金による超強力X線発生装置と粉末X線回折装置(昭和49年)、単結晶自動X線回折装置



(昭和53年) および電子計算機システム(昭和61年)の本学への導入にご尽力され、医薬品をはじめとする生体分子の構造化学研究の充実を図られました。導入当時、これら装置は他大学にはほとんど完備されておらず、本学を特徴づける研究機器として全国から多数の構造解析依頼があったことは言うまでもありません。定年を迎えられた平成4年に、長年の研究テーマであるグリセロリン酸カルシウムの構造解析に成功されたお話は、先生のこれまでの努力が報われ、感慨深く、また、印象的でありました。

先生は本学が大学設置認可になった当初から大学と共に歩んでこられた最後の先生でもあります。常に、先生自身の立場よりも学生を大切に考え、大学の将来にたいしてプラスになるよう努力されてこられたことは万人が認めるところであります。私は、先生の大きな寛容力と包容力によって育てられて参りました。先生にお会いできたことは、私の48年間の人生での、最も幸運な出来事であったと思っています。先生が本学を去られたことは、大きな心の支えを失ったようで寂しい気持で一杯です。しかし、43年間の半世紀近く勤務され、健康で退任を迎えられたことは、本当にお目出度いことであると思えます。

先生どうも長い間ご指導ご鞭撻ありがとうございました。ご健康で退任を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。これからも十二分に健康に注意していただき、いつまでもお元気で過ごされますようお祈りいたしますと共に、これからもよろしくご指導の程お願い申し上げます。

■ 井上正敏先生よりご寄附

3月31日で定年退職されました井上先生より本学に多額のご寄附がありました。本学が高槻に移転した時に、緑豊かな学校にしてほしいとのご希望にそって大切に使用させていただきます。

吉矢評議員

日本薬剤師会会長に選出される

本法人 吉矢 佑評議員は、平成6年2月25日の会長選挙で投票の結果、会長に選出され、4月1日就任されました。

開局薬剤師であり大阪在住の会長は異例のことですが、保険医療制度の転換期の中で今後のご活躍を期待します。

浦田秀仁助手

「日本薬学会近畿支部奨励賞」受賞



日本薬学会近畿支部は、平成5年度支部奨励賞選考委員会を設け、6名の受賞者を決定した。第2部門より、浦田助手が同賞を受賞された。

受賞研究

「ヘテロキラル DNA における安定なワトソン-クリック型塩基対の形成」

授賞式は平成6年1月14日、烏丸京都ホテルで行われた。先生の受賞講演は本年度秋、神戸薬科大学での第44回日本薬学会近畿支部大会で行われることになっている。

研究室だより

第1 薬剤学教室



講師 西野 隆 雄

薬剤学は生薬学とともに、今まで薬学独自の科目とされてきました。また薬剤学は、非常に急速に進化を遂げている学問領域でもあります。近年医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、医療の場で薬剤師の職能をより有効に活用しようとする機運が高まっています。このような医療の場に直結した現在の薬剤師職能を支えてきたのが、薬剤学です。

私は、故 秦 清之教授の生薬化学教室に助手として着任しましたが、秦先生が亡くなられた後、当時酒井 清 教授の製剤学教室（現在の第1 薬剤学教室）に移り現在に至っています。その様な訳で、奇しくも文頭に示した2つの科目に関連した教室に在籍する機会を得、薬学をより深く考え、修めていく上で、絶好の場を与えられたと思っています。一昨年、酒井 清 現名誉教授の御退任後、薬学の重要な科目を担う第1 薬剤学教室をお預かりすることとなり、非常に責任を感じるとともに、教育と研究に対する新たな意欲が湧いてくるのを実感として抱いています。

第1 薬剤学教室の現在の教室員として、私以外に吉村由香里助手、4年生の特別実習生7名と研究生1名が在籍しています。吉村助手は、昨年曾根節子先生の御退任後、化学第二教室から移籍してきました。当教室は、東研究棟の1階にあり、陽気な教室員が多いことから、教室員以外の学生の出入りも比較的多い教室です。

現在の主な研究テーマは、“天然素材の医薬品への有効利用”という観点で、①天然物資の製剤素材に関する研究、②生薬の医薬品相互作用に関する研究、③漢方製剤の製剤試験に関する研究、です。①に関しては、現在デンプンなどの天然物質が製剤素材として利用されていますが、まだ数多くの製剤素材としての可能性を秘めた天然物質が存在し、これらの有効利用とともに、新規製剤の開発に本研究が資すことができればと考えています。②に関しては、漢方処方における、個々の処方生薬の薬剤学的な役割の一部でも解明できればと思っています。③に関しては、現在使用されている漢方製剤のバイオアベイラビリティ評価方法の確立等、まだ一般製剤に比べて不十分であり、今後の漢方製剤の再評価に役立つことができればと考えています。

現在、薬学教育は大きな変革期を迎えており、薬剤師国家試験制度も平成8年度から大幅に変更されます。薬剤学は、従来から薬剤師国家試験の主要科目の一つですが、変更後は現在の薬理学等とともに、医療薬学として、より大きな責務を負わされるようになります。本学においても、新カリキュラムから薬剤学は医療薬学、生物薬剤学、剤形開発学等の名称に変更されました。この様に、薬学独自の科目とされてきた薬剤学もさらなる変革を求められています。そのためにも、第2 薬剤学教室の掛見教授初め、森本助教授、岩永助手、医療薬剤学教室の中元助教授とのより一層の連携が必要と考えています。



後列：左から 稲石、二澤、箸方、森田、南野、梁
前列：左から 西塚、吉村、西野、井原

機器紹介

高性能二重収束質量分析計

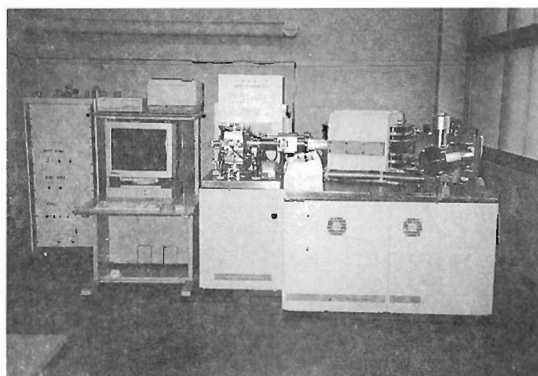
[機種名：日立 M-400H]

質量分析計 (Mass spectrometer; MS) は、化合物の分子量や組成式の決定や構造解析など主に有機化学の研究に広く活用されてきた。しかし最近の質量分析法の発展は目覚ましく、FAB (Fast Atom Bombardment), SIMS (Secondary Ion Mass Spectrometry) はもちろんのこと ESI (Electrospray Ionization), LC/MS (Liquid Chromatography/Mass Spectrometry) など次々に新しいイオン化法や測定法が開発され、10年前ではほとんど不可能とされていた難揮発性物質や高分子物質の測定が可能となった。また、測定感度の向上により超微量成分の高感度、高分解能測定も可能となったので、質量分析の応用範囲は有機化学分野はもちろんのこと生体材料を扱う生化学分野の研究にまで拡大されてきた。本学においても薬学分野での分析ニーズの高度化に対応した精度、感度、分子量いずれの面においても過去11年間利用されてきた従来機M-80形を越えた性能を持つ高性能二重収束質量分析計の整備が望まれてきた。今回、平成5年度私立学校施設整備費補助金により導入された装置はこれらのニーズを満たすと共に生体関連成分の分析などにも有効な各種のイオン化法を具備し GC のみならず LC/MS システムも装着してより高度な分析が行えるようになっている。

[特徴]

従来機M-80形での測定内容に加え、更に下記の分析が行えるようになっている。特に、画期的な高効率の新しい大型イオン光学系の効果で、微量分析や高性能な構造解析能力が大幅に向上している。

1. 高分解能で且つ高感度であるので、従来以上に微量、高分子量の試料も構造解析 (ミリマス) 測定が可能。
2. 難揮発性の試料や、高極性の試料の測定に有効



な、SIMS や ESI 等のイオン化法も揃え、生体成分をはじめとする高分子量の分析も可能。

3. 安定に広範囲の成分を分離分析できる LC/MS システムも装着し、GC では分析できなかった試料の分離分析にも対応可能。
4. 負イオン測定による高感度分析可能。
5. リンクドスキャンによる構造解析が可能。
6. 各種の分析手法の切り替えが、短時間で行えるので、多角的な分析が可能。
7. 高速高機能のワークステーションを搭載して、操作性が向上。

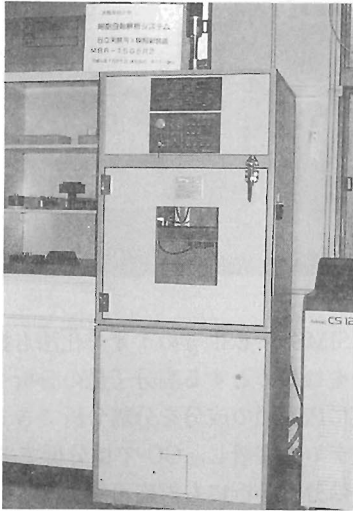
[仕様]

- | | |
|-----------|---|
| 1. 分解能 | M/ Δ M 10,000 (EI源 イオン源スリット幅 0.5 mm) |
| 2. 感度 | 0.03 ng (S/N \geq 10, メチルステアレート/キャピラリーカラム/EIモード) |
| 3. 質量範囲 | m/z 6,000 (加速電圧 6KV) |
| 4. イオン光学系 | 磁場半径 400mm, 電場半径 351mm, QQQBQEタイプ) |
| 5. 像縮小率 | 0.05 |
| 6. 最大加速度 | 0.6 KV |
| 7. イオン源 | EI/CI, LC/MS イオン源 (APCI, ESI), SIMS |
| 8. データ処理 | WS HP 9000/400 シリーズ
OS HP-UX, OSF/Motif
CPU 68030/68040, 50MHz
外部メモリ 光磁気ディスク 600Mバイト |

以上大まかに紹介したように、この装置の導入により本学におけるMSを用いた研究への利用並びに応用範囲が大幅に拡大するものと確信している。

(教授 栗原拓央, 助手 藤嶽美穂代 記)

細胞自動解析システム



—X線照射装置—

平成5年度私立大学研究設備整備費等補助金に、免疫学及び免疫薬理学的研究に必須の「細胞自動解析システム」が採用されて、(株)ダイソーを窓口にして1月17日本学に導入された。昨年度はFACS-Sortを主装置にして申請したが採択されず、今年度は、FACSscan(細胞解析が主体で分取は出来ない)を主装置にして申請した(昨年度より1500万円減額)。1 昨年の学内調整の時期からすれば、3度目の正直、この種の装置は本学では最初である。システムの内容は以下のとおり。

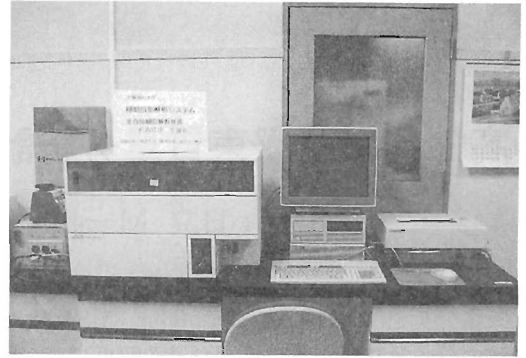
1. 細胞自動解析装置 FACSscan: Becton-Dickinton社製(藤沢製薬KK発売)

特徴は、小型で狭いスペースで操作出来ること。小型空冷アルゴンレーザーを採用しているため、冷却水や高圧電源も必要ない。

2 番目に5パラメーター同時検出が可能で、3カラー表示が可能であること。

3 番目に、ある細胞種の解析にあたり、用いた細胞特定条件をゲーティングに記憶させれば、次回からこれを出して再現性よく条件設定が出来る。

2. X-線照射装置 MBR-1505 R 2: 日立メダコ社製
細胞乃至動物をX線照射する装置である。特徴は小型で外部漏洩線量が殆どなく特別の保護装置、管



—細胞自動解析装置—

理区域、資格管理者を必要としない。第2に照射線量が自動制御されているので正確な照射実験が出来る。

in vitro 細胞性免疫反応における応答細胞/抗原刺激細胞の系調製のため、本照射装置を利用して、後者細胞の増殖能を予め殺しておく。或は免疫不全動物を作成するため、動物を照射する。応用として、免疫抑制剤、増強剤のテスト系調製にも利用できる。

両機器とも、現在遺伝子解析室に置かれているが、動物照射実験が始まれば、X線照射装置のみ実験動物センターに移動することもありうる。

(教授 保坂康弘 記)

教育用コンピューターシステム

平成5年度私立大学研究設備整備費補助金に「教育用コンピューターシステム」を申請しましたところ、幸運にもその申請意義が認められ採択されました。

このシステムは1年次生の情報科学演習のほか、国家試験の自習用演習の為に、その他、一般実験データの算出や整理ならびに統計処理等の数値計算用として、主に学生が多目的に利用できるように導入されました。このシステムは、納入業者からのサービスを含め、コンピューター機器45台(Macintosh LC 520 x 40, Macintosh Quadra 840AO x 1台, NEC PC9821CE x 4台)、プリンター5台(Laser Writer

図書館だより

■ CD-ROMの導入

かねてより増加の一途をたどっている図書館資料について図書委員会では、

- ① 保管にスペースをとらない。
- ② 検索、複写等において格段の利便性に優れている。

などの点から、図書館の将来に視点をおき、電子媒体資料としてのCD-ROM化について検討を重ねてきました。

平成4年度に故小延教授ご寄贈資金のうちより、「CD-ROM版 第12改正 日本薬局方解説書」を端緒としてCD-ROM版の購入にふみきました。

その後「Chemical Abstracts 12th Collective Index on CD-ROM」及び「Dictionary of Natural Products on CD-ROM」の購入につづいてハードウェアとして、IBM製PC(2405-NWC)キャノン製レーザープリンター(LBP-A 404 G 2)等を購入し、第1閲覧室に設置して皆様の利用に供する運びとなりました。有効に活用されることを期待します。

〈最近購入した主な図書〉

- 原色昆虫大図鑑 1～3
- 和漢薬百科図鑑 2
- セレンディピティー
水の分析
- 膜学実験シリーズ 1～3
- 図説医療用語辞典
- 科学が裁かれるとき
- 微生物の世界
- DNAサイエンス
- バーバラ・ハリスの臨死体験
- C60・フラーレンの化学
- プラス・マイナス暗記法キングコース医学英語
- 元素の世界ツアリングガイド
- 受容体タンパク質 1, 2
- 健康生活と現代

Pro-400 x 4 台, LDP PC-PR2000 x 1 台) よりなり、これらの機器は総て情報処理室の Micro VAX コンピューターにネットワークで接続され、端末機器としても利用できるように設置されています。これらのコンピューターには、単独でワードプロセッサとして利用でき、さらに表計算、作表、作図等ができるよう、MS Excel と Chem Draw のソフトプログラムが載っています。

以上、今回導入されました教育用コンピューターシステムの概要を説明いたしました。これらシステムの利用は情報処理運営委員会で決定された利用内規に従って下さい。



さて、本学の情報科学教育の開始は昭和58年で、その薬学における教育効果の重要性を認識し、近畿圏の薬科大学としてはかなり早い時期から、そのための教材作成や演習を行っていることを皆様にご存じでしょうか。今回のシステム導入はその延長線上にあり、大幅な教育効果の向上を目指したものです。薬学におけるコンピューター利用の重要性は、現在では、万人が認めるところです。優秀な学生を集めることは、大学の将来にとって、また、社会的評価を高める上で極めて重要なことです。本学は、時代の要請を先取りした情報科学教育をかなり早くより発足させ、現在、他大学をリードできるに足る十分立派な設備とそれを十二分に使いこなし、かつ教育できる人材を擁していることを、読者の皆様にはご理解頂き、もっと広く宣伝していただきたいものです。

(教授 石田寿昌 記)

■ 市民講座の開催

本学は今年創立90周年を迎えるにあたり、記念行事の一環として講演会を開くことになりました。その講演会をどのようなものにするか公開教育講座委員会、市民講座委員会において種々検討した結果、地域の文化活動にも貢献できる市民講座の形式にすることになり、6月11日（土）松原市文化会館において「大阪薬科大学第1回市民講座」を開催することになりました。

なお、創立90周年をきっかけに始めることとなったこの市民講座は、今後毎年続けていく予定です。

大阪薬科大学創立90周年記念

大阪薬科大学第1回市民講座

「健康とくすり」

日 時：1994年6月11日（土）午後1時30分～4時15分

場 所：松原市文化会館 ホール 松原市田井城1-3-11

☎ 0723-36-5755

講 演：「カルシウムと塩分と病気…」

今からすこやかな老後のために」

大阪薬科大学教授（第二薬理学） 玄番 宗一

「ホルモンと老化」

大阪医科大学教授（第一内科学） 大澤 仲昭

定 員：約600名（先着）

入場料：無 料

その他：午後 $\left\{ \begin{array}{l} 12:30 \sim 1:30 \\ 4:15 \sim 5:00 \end{array} \right\}$ に薬の相談コーナーを開設します。

薬剤師10名が薬に関する相談にお答えします。

主催 大阪薬科大学

共催 大阪薬科大学同窓会、大阪府薬剤師会、

大阪府病院薬剤師会、松原市薬剤師会

後援 松原市、大阪府

■ 創立90周年記念事業

本学は今年の5月9日をもって創立90周年を迎えます。これを記念して、講演会および記念式典を行うことになりました。

なお、講演会は市民講座という形で実施することになりました。

1. 大阪薬科大学第1回市民講座

平成6年6月11日（土） 1:30～4:15
松原市文化会館 ホール

2. 大阪薬科大学創立90周年記念式典

平成6年10月7日（金）
都ホテル大阪（上六）

■ 実験動物慰霊祭

平成5年12月18日（土）午後1時より、本学34教室において、日頃実験動物を取り扱って実験を行っている教員、学生多数参加のもとに、実験動物慰霊祭が執り行われました。

前回より大学行事として学内で実施することになりましたが、今後は実施時期を12月頃として続けていきます。

特別講演会

演 題：米国での病院業務における薬剤師の役割とその責任

Role and Responsibility of Pharmacists in Hospital Practice in the United States

演 者：Charles H. Nightingale, Ph.D.

Vice President for Research, Hartford Hospital, Hartford Connecticut Research Professor, School of Pharmacy, University of Connecticut

日 時：平成6年4月21日（木）、3:30 p.m.

場 所：大阪薬科大学 21教室

主 催：日本薬学会近畿支部



平成6年度学校法人予算について

事務局長 河野 光 次

去る平成6年2月18日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成6年度予算が審議のうえ承認されたので、消費収支予算書総括表を掲載し、その概要を説明することとしたい。

(学生納付金)

平成5年度より実施している学費スライド制ともなう今年度の学費改定等を反映し、前年度比1億7430万円増の19億2590万円を計上した。

(補助金)

經常費補助金は、近年の減少傾向を反映し、前年度比2000万円減の2億5000万円を計上した。また、

施設設備費補助金については、今年度の申請を見送ることとした。

(帰属収入合計)

平成6年度における帰属収入の合計は、前年度比9825万円増の23億830万円となっている。

(消費支出)

平成6年度における消費支出の合計は、経費の削減をはかることを折り込んで、前年度比1510万円減の22億1720万円となっている。

(基本金組入額)

平成6年度における基本金組入額には、設備関係1億1220万円（教育研究機器6600万円、図書4000万円他）及び移転関係3億2226万円他を計上した。

平成6年度消費収支予算書

{平成6年4月1日から
平成7年3月31日まで}

消費収入の部 (単位円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金	1,925,900,000	1,751,600,000	174,300,000
手数料	69,000,000	72,900,000	△ 3,900,000
補助金	252,900,000	324,400,000	△ 71,500,000
資産運用収入	30,000,000	30,000,000	0
事業収入	6,200,000	6,450,000	△ 250,000
雑収入	24,300,000	24,700,000	△ 400,000
帰属収入合計	2,308,300,000	2,210,050,000	98,250,000
基本金組入額合計	△ 362,000,000	△ 334,400,000	△ 27,600,000
消費収入の部合計	1,946,300,000	1,875,650,000	70,650,000

消費支出の部 (単位円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
人件費	1,310,500,000	1,283,590,000	26,910,000
教育研究経費	553,100,000	545,340,000	7,760,000
管理経費	95,000,000	142,270,000	△ 47,270,000
借入金等利息	228,600,000	231,100,000	△ 2,500,000
[予備費]	30,000,000	30,000,000	0
消費支出の部合計	2,217,200,000	2,232,300,000	△ 15,100,000
当年度消費支出超過額	270,900,000	356,650,000	
前年度繰越消費支出超過額	1,563,200,000	1,832,050,000	
翌年度繰越消費支出超過額	1,834,100,000	2,188,700,000	

新カリキュラム発足について

教務部長 千熊正彦
教 授

日本の社会では政治・経済をはじめあらゆる仕組みがリストラ（再構築）を迫られているのに対し、大学でも戦後最大の改革が進んでいます。平成3年7月大学設置基準の一部を改正する省令が施行されました。その改正の趣旨は、個々の大学が、その教育理念、目的に基づき学術の進展や社会の要請に適切に対応しつつ特色ある教育研究を展開し得るよう大学設置基準の大綱化により制度の弾力化を図るとともに生涯学習の振興の視点から大学における学習機会の多様化を図ることを期待するものであります。

本学でも平成2年5月から教育検討委員会を中心に活発な議論を進めてまいりましたが、基本構想がほぼまとまった平成5年12月からはカリキュラム実施委員会が実施案を作成し、平成6年度より実施することになりました。学内挙げてのご協力とご援助のお蔭で実施に至ることができましたことに対し、深く感謝いたします。本学における平成6年度カリキュラム編成に当たっての基本的改正点は、次のようにまとめられるかと思えます。

1. 従来の一般教育科目、専門教育科目等の授業科目の区分を廃止した。
2. 授業科目の区分を基礎共通科目、基礎薬学科目、応用薬学科目の三つに大別し、これらを体系的に編成した。
3. 薬学、製薬学科の特徴を、従来に比べ、より明確にした。
4. 厚生省の薬剤師国家試験出題新基準に関する中間意見に述べられた基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、薬事関連法・制度の4分野に対応するカリキュラム編成が両学科で今後可能となるように配慮した。
5. 定期的にシラバスを作製し、講義と実習の両面において効率的な学習が行えるようにした。
6. 卒業に必要な単位数を134から127に減らした。内容的に見ると、基礎共通科目の中では、基礎ゼミ、総合講座、数理薬科学など、幅広く深い教養と

総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための科目を設けたこと、英語、ドイツ語などの語学は、継続的に学習でき、しかも専門科目と有機的に関連づけ、4年間を通じて広い知識を修得させるように配列したことなどが、主たる特徴であります。基礎薬学科目には薬学の基礎となる重要な科目が配当され、すべて必修であります。また、応用薬学科目には、国家試験出題新基準の中で重要視されている医療薬学や学術の進歩や社会的な要請に対応する科目を配置し、学生の希望が入れられるように選択科目を多くしました。

また、カリキュラムの改正とともに学則および履修規程の見直しも並行して行われました。履修規程での主たる改正点は、出席制度が導入されたこと、再試験制度が復活されたこととあります。薬剤師免許が薬学の卒業生にのみ与えられるという特権は、薬系大学がその講義、実習を学生に責任を持って施してはじめて許されるものであります。従って、出席制度は、学生の出席率の良い場合であっても、大学の責任として設けて置くべきであるという考えも成り立つかと思えます。

一方、再試験に関しては、本学では従来より議論のあるところですが、4年間で幅広い専門科目を課す薬系大学では消化不良を起こす学生が多く、どの大学ともその対策に苦慮しているところとあります。根本的な対策は大学が大衆化している現在、なかなか難しいと思えますが、留年という社会的損失を減らすための対症療法として、再試験が必要と判断されたものと考えています。

なお、教育検討委員会でカリキュラム改革に関する議論が行われている途中の平成5年7月に厚生省が薬剤師国家試験出題基準に関する中間意見を発表し、平成8年度から新基準に基づく国家試験を行うことを明らかにしました。その時点では新基準の細部が判らなかつたこともあり、新カリキュラムも大枠は決定したものの、一年毎に詳細を決めるということでスタートいたしました。従って、今後の国家試験出題動向をも参考にして、常時カリキュラムの見直しと改定作業を続ける必要があります。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

教務課だより

■ 『大学入試センター試験利用入試』導入決定！ 本学では入学者選抜の多様化のため、このたび従

来の一般入試，推薦入試（一般公募制）に加えて，平成7年度より一般入試の一部として「大学入試センター試験利用入試」を導入することになりました。なお，募集人員，入試日程および入試科目等については次の表をご覧ください。

平成7年度大阪薬科大学入学試験概要

区 分	推薦入試（一般公募制）（S方式）	センター試験利用入試（C方式）	一 般 入 試（G方式）
募 集 人 員 （男・女）	薬 学 部 計70名	薬学部 薬 学 科 10名 製薬学科 10名 } 計20名	薬学部 薬 学 科 75名 製薬学科 75名 } 計150名
出 願 期 間	H. 6. 11. 1（火）～11. 15（火）	H. 6. 12. 26（月）～H. 7. 1. 14（土）	H. 7. 1. 11（水）～2. 1（水）
入 学 試 験 日	H. 6. 11. 20（日）	{H. 7. 1. 14（土）・H. 7. 1. 15（日）}	H. 7. 2. 10（金）
合 格 発 表 日	H. 6. 12. 1（木）	H. 7. 2. 4（土）	H. 7. 2. 16（木）
入 学 手 続 締 切	H. 6. 12. 20（火） 一括方式	{1次} H. 7. 2. 10（金） 2段階方式 {2次} H. 7. 3. 24（金）	{1次} H. 7. 2. 24（金） 2段階方式 {2次} H. 7. 3. 24（金）
試 験 場	本 学（男女共）		本学（男）・代々木ゼミナール大阪校（女）
入 試 科 目	{外国語} 英 語 90分 100点 {小論文} 90分 100点	{数 学} 数 学 I 100点 数 学 II 100点 {外国語} 英 語 200点 {国 語} 国 語 200点 {理 科} 化 学 100点×2 生 物 理より1科目選択 (800点満点)	{数 学} 数 学 I 90分 100点 代 数・幾 何 基 礎 解 析 {外国語} 英 語 II 90分 100点 英 語 II B 英 語 II C {理 科} 化 学 90分 100点 (300点満点)

■ 『新カリキュラム』スタート！

本学では大学設置基準の大綱化，薬剤師国家試験出題基準の改定および医療法の改正等を踏まえて，カリキュラムの改革を検討してきましたが，このたび平成6年度入学生から新カリキュラムを適用する

ことになりました。なお，新カリキュラムの導入に伴い，「大阪薬科大学学則」，「授業科目の履修要項」（従来の「学科履修規程」に相当）も大幅に改正しましたのでそれらの概要をお知らせします。

カリキュラム対比表

	従来のカリキュラム（平成5年度入学生）	新カリキュラム（平成6年度入学生）
科 目 区 分	一般教育科目，外国語科目，保健体育科目，専門教育科目の4区分	基礎共通科目，基礎薬学科科目，応用薬学科科目の3区分（別表I参照）
試 験 の 種 類	定期試験，追試験，特別再試験	定期試験，再試験，特別再試験
成 績 の 評 定	秀，優，良，可（合格）・不可（不合格）	A，B，C（合格）・D（不合格），F（成績の評定のできない場合）
進 級 条 件	各年度末での未修得科目数が13科目以下であること。	2年次以降の各年度末での未修得科目数が8科目以下であり，かつ3年次から4年次は応用薬学選択科目より3科目以上修得していること。
出 席 制 度		出席時間数が授業時間数の3分の2に満たない者は，原則として定期試験を受験できない。
単 位 の 授 与	試験の成績による。	出席および試験の成績等による。
卒 業 に 必 要 な 単 位 数	134 単位以上	127 単位以上（別表II参照）

(別表 I)

新カリキュラムの開講科目一覧

(基礎共通科目)	(基礎薬学科目)	(応用薬学科目)	
基礎ゼミ※	薬学概論	放射薬品学	剤形開発学
総合講座 1	理化学 1	生物無機化学	薬物療法学 1
総合講座 2	理化学 2	生物物理化学	薬物療法学 2
人文科学特論 1	理化学 3	分子構造学	薬物療法学 3
人文科学特論 2	理化学 4	応用分析学	生体内情報伝達学
人文科学特論 3	理化学 5	臨床化学	毒科学
社会科学特論 1	理化学 6	分子軌道法	医薬品情報学
社会科学特論 2	理化学 7	医療放射線学	臨床医学概論
社会科学特論 3	理化学 8	医薬品化学 1	臨床生理学
数学 1	薬用植物学	医薬品化学 2	臨床薬理学
数学 2	生薬学 1	薬品製造学 1	医用工学
数学 3	生薬学 2	薬品製造学 2	臨床検査総論
数学演習	生薬化学 1	漢方生薬学	薬事関連法・制度
物理学入門	生薬化学 2	天然医薬品学	薬局方各論
物理学 1	有機化学 1	東洋医学概論	薬学総合演習 1
物理学 2	有機化学 2	精密有機合成	薬学総合演習 2
数理薬科学	有機化学 3	生物科学 7	外国語文献講読 1
情報科学	有機化学 4	病態生理学	外国語文献講読 2
情報科学演習	生物科学 1	理論生化学	卒業研究演習・医療薬学演習
英語 1	生物科学 2	遺伝子工学	特別実習
英語 2	生物科学 3	病態生化学	理化学実習 1
英語 3	生物科学 4	実験動物科学	理化学実習 2
英語 4	生物科学 5	院内感染症学	理化学実習 3
英語 5	生物科学 6	医薬資源開発学	有機化学実習
英語 6	応用生物科学 1	衛生科学 1	医薬品化学実習
ドイツ語 1A	応用生物科学 2	衛生科学 2	薬品製造学実習
ドイツ語 1B	基礎病理学	衛生科学 3	生薬学実習
ドイツ語 2	機能形態学 1	薬局方概論	生物科学実習 1
ドイツ語 3A	機能形態学 2	物理薬剤学	生物科学実習 2
ドイツ語 3B		生物薬剤学 1	生物科学実習 3
ドイツ語 4		生物薬剤学 2	衛生薬学実習
保健体育理論		医療薬学 1	薬理学実習
体育実技 1		医療薬学 2	医療薬学実習
体育実技 2		医療薬学 3	

※ 基礎ゼミ

Freshman Seminar と称し、1年次生前期に開講する。次の16のゼミから希望のゼミを選択する。

〔開講ゼミのテーマ・内容〕

- 自然のめぐみと人間
- 日本人考
- 風景と文化
- 自然科学の英文論説の輪読
- 教育と教養
- 物理学はいかに創られたか
- 漱石入門
- 老年学 (Gerontology) — 高齢社会を探る
- 現代医療の諸問題
- 比較大学論
- 医療とは？
- ギリシャ神話入門
- データ・プロセス
- 生と死について—「見えない死」をめぐって
- 生態と環境 (Ecology)
- アウグスティヌスの思想・精神の遍歴

(別表Ⅱ)

新カリキュラムの卒業に必要な単位数

科 目		単 位 数	
		薬 学 科	製 薬 学 科
基礎共通科目	必修科目	26.5	26.5
	選択必修科目	4.5	4.5
	選択科目	2.5以上	2.5以上
	体育実技	1.5	1.5
	小計	35以上	小計 35以上
基礎薬学科目	必修科目	40.5	40.5
	小計	40.5	小計 40.5
応用薬学科目	必修科目	28	26
	選択科目	12以上	14以上
	実 習	11.5	11.5
	小計	51.5以上	小計 51.5以上
合計		127以上	合計 127以上

学位授与

博士(薬学)

博第5号 久木 一弘(薬理学)(平成6年3月19日付)

ビッグエンドセリン-1からエンドセリン-1への変換に関する薬理学的研究

論博第10号 宮田 敬三(平成6年1月10日付)
抗腫瘍性サイトカインおよびウイルス膜蛋白質のペプチド構造と機能に関する解析とその創薬的応用

論博第11号 川口 昇(平成6年2月4日付)
Cordyceps ophioglossoides の産生する多糖の構造と生物活性に関する研究

論博第12号 佐久間 覚(平成6年3月17日付)
ウサギ腎皮質におけるプロスタグランジン代謝の調節因子に関する研究

修士(薬学)(平成6年3月19日付)

修第177号 安西 欣清(薬化学)
光学活性 2'-hydroxyepijuabione の合成研究

修第178号 田口 浩基(薬化学)
海洋生物由来の菌類の細胞毒性代謝産物に関する研究

修第179号 山田 剛司(薬化学)
海洋生物由来の真菌の産生する細胞毒性含硫ジケトピペラジン誘導体に関する研究

修第180号 関岡 利明(生薬学)
数種の生薬の水可溶塩基性成分に関する研究

修第181号 桶東 愛史(薬品製造学)
マガラネシンの合成研究

修第182号 高井 雅人(薬品製造学)
アゼトピリドインドール誘導体のマイゼンハイマー転位に関する研究

修第183号 藤本 賢二郎(衛生化学)
ウサギ肝臓のキサンチンデヒドロゲナーゼからオキシダーゼへの変換機構に関する研究

修第184号 宮田 佳典(衛生化学)
ウサギ胃幽門部粘膜層におけるプロスタグランジンの生合成および代謝調節因子に関する研究

修第185号 島田 亮子(生化学)
ハブ血漿由来ホスホリパーゼA₂阻害タンパク質のサブユニット構造と機能

修第186号 谷 健(生化学)
ホスホリパーゼA₂と2種の基質アナログの結合様式

修第187号 山科 勝則(微生物学)
マウスMHC表現欠損変異細胞を用いたウイルス抗原提示機構の分子生物学的解析

修第188号 遠藤 博(微生物学)
好熱放線菌 *Streptomyces thermoviolaceus* OPC-520株のキチナーゼ遺伝子のクローニングおよびその塩基配列の決定

修第189号 藤本 和博(微生物学)
海洋細菌 *Alteromonas* sp. 0-7株の産生するN-アセチルグルコサミニダーゼの精製およびその遺伝子のクローニング

修第190号 大音 和重(薬剤学)
Deprenyl の生体内動態と薬理効果に関する研究

修第191号 中出 進(薬剤学)
サケカルシトニンの薬理効果と生体内動態の評価

修第192号 明星 英俊(薬剤学)
オレイン酸類による薬物の皮膚透過と吸収促進機構に関する研究

修第193号 江木 康陽(薬理学)
腎神経刺激による抗利尿作用並びにノルエピネフリン放出に対するニトロアルギニンの影響

修第194号 藤田 克哉(薬理学)
ラット腎臓におけるビッグエンドセリン-1からエンドセリン-1への変換及びエンドセリン-1の分解

修第195号 藤野 勝宏(薬理学)
エンドセリン変換活性を有する膜結合型金属プロテアーゼの同定に関する研究

修第196号 竹岡 寛生(薬理学)
培養腎上皮細胞における薬物性障害

修第197号 戸田 正宏 (薬理学)

薬物性急性腎不全に対する新規化合物HX-1920の軽減作用とその発現機構

修第198号 田口 一彦 (薬品分析学)

ヒドロキシピリジルアゾ系色素の分析化学への利用研究

修第199号 藤本 剛 (薬品分析学)

ナフチルアミン誘導体の有機試薬としての利用研究

修第200号 山内 英征 (薬品分析学)

蛍光反応における界面活性剤の併用効果並びにアルデヒド誘導体-芳香族第1級アミン化合物間の反応の活用について

修第201号 今垣 和秀 (薬品分析学)

Thiazolidine型ビタミンB₆関連化合物のメラニン生成阻害作用に関する研究

修第202号 山根 浩稔 (薬品分析学)

シスプラチン耐性癌に有効な新規白金(II)二核錯体の分子設計

修第203号 石部 厚夫 (薬品物理化学)

オピオイドペプチドのキラリティーと活性との相関に関する研究

修第204号 鍛冶 敏夫 (薬品物理化学)

大腸菌によるラット・Cathepsin Lの大量発現の試み

修第205号 瀬川 元住 (薬品物理化学)

オピオイドペプチド Dermorphin 及び Deltorphins の膜環境下での ¹H-NMR による立体構造解析

修第206号 猪原 武男 (薬品物理化学)

変異原物質 Trp-P と DNA との相互作用研究

修第207号 長田 裕臣 (薬品物理化学)

生体分子のピクレート複合体結晶における相互作用様式

修第208号 安井 将展 (薬品物理化学)

大腸菌中での eIF-4E 蛋白質の直接発現と精製及びその物理化学的性質

修第209号 小山 頭 (放射薬品学)

ビペリジン誘導体の SPECT 用シグマレセプターイメージング放射性医薬品への応用

学士(薬学) (平成6年3月19日付)

薬第3238号~薬第3363号 薬学科 126名
製第2549号~製第2646号 製薬学科 98名

平成6年度大学院薬学研究科博士前期(修士)課程
入学試験結果

区分		志願者	合格者	入学者
1次募集	男	34人	29人	27人
	女	12	10	10
2次募集	男	5	5	5
	女	1	1	1
合計	男	39	34	32
	女	13	11	11
	計	52	45	43

平成6年度一般入学試験結果

	志願者	受験者	合格者	入学者
男	860人	801人	255人	87人
女	1,348	1,292	498	195
計	2,208	2,093	753	282

第79回 薬剤師国家試験結果

試験期日：平成6年4月2日(土)~3日(日)

合格発表：平成6年4月27日(水)

区分	受験者	合格者	合格率
新卒	224人	194人	86.61%
	6,968	5,923	85.00
その他	91	30	32.97
	1,864	708	37.98
総数	315	224	71.11
	8,832	6,631	75.08

- ・新卒とは平成6年3月19日卒業者である。
- ・各区分の上段は本学，下段は私立薬系大学(29)のデータである。

学生課だより

■ アルバイトについて

大学は、アルバイトを好ましい事だと思いません。大学生活は最後の学生生活であり社会に出る前の貴重な準備期間だからです。そのなかでは大学から教授することや自分で学び研究していかなければならない必要なことが多くあります。薬学を学ぶ目的をもう一度考えて下さい。その目的を達成するための限られた貴重な時間を、勉学や研究、クラブ活動など学生時代にしかできない有意義なことに活用するよう望みます。「人の健康や福祉に貢献するため」を心のなかに留め、学生の本分に全力を尽くして下さい。

なお学生課では、経済的にどうしてもアルバイトをしなければいけない人に「家庭教師」と「病院薬局関係」に限り紹介していますが、これも勉学や健康に支障をきたさないよう十分配慮して下さい。

■ アルコールについて

大学生活では、クラブのコンパや友人同士で親睦を深めるためといった理由でお酒を飲む機会が多くあります。しかし言うまでもありませんが20才未満の飲酒は法律で禁止されていることを肝に銘じて下さい。「酒は百薬の長」といわれ自分の適量を知り静かに飲むうちはあまり問題はないようです。しかしクラブのコンパなどで、酒席独特の雰囲気について飲みすぎたりすることがあります。また先輩が飲めない後輩に無理やり勧めたり、酒席を盛りあげるといふ理由で数年前から流行している「一気飲み」をして酔いつぶれる者もいます。

他の大学では、コンパで「一気飲み」をして意識がなくなり病院に収容したが、「急性アルコール中毒」で死に至ったとの報告もあります。

今後、酒席では「強制的な飲酒」や「一気飲み」はやめて下さい。また飲めない人は「私は飲めません」ときっぱり断る習慣を身につけて下さい。

20才を過ぎて飲酒ができるようになって、日頃から飲み方や量に十分注意して、決して「アルコール依存症」や「急性アルコール中毒」に陥ることのないよう気をつけて下さい。

■ 保健室について

学内で起きる急な病気やけがをしたときのために保健室（東棟1階）と休養室（学生会館1階）を設けています。休養室にはベッド、保健室にはベッドのほか保健に必要な器具、薬品類、担架等を備えて

います。また、保健室には保健婦が常駐しています。病気やけがの程度によって応急手当や病院へ搬送の手配などを行うほか、健康の相談や指導も行っていますので気軽に訪問して下さい。

平成5年度保健室利用状況

月	利用者			利用内容					
	学生	教職員	小計	外科系	内科系	健康指導・相談	休養	転送	小計
4	88	28	116	23	32	57	4	0	116
5	97	16	113	35	29	43	5	1	113
6	117	22	139	23	44	66	6	0	139
7	88	19	107	9	32	62	3	1	107
8	24	4	28	0	5	21	0	2	28
9	71	18	89	4	26	55	4	0	89
10	68	23	91	30	43	14	2	2	91
11	64	28	92	25	45	17	5	0	92
12	53	29	82	17	53	6	6	0	82
1	29	20	49	5	32	10	2	0	49
2	23	27	50	4	33	12	1	0	50
3	25	29	54	6	33	15	0	0	54
合計	747	263	1010	181	407	378	38	6	1010

* 外科系→ガーゼ交換・湿布交換を含む。

* 健康指導・相談→健康診断書の発行・検尿・血圧測定・体温測定等含む。

平成6年度 学友会執行委員会

執行委員長 松田 浩明② (フォークソング部)
 副執行委員長 大久保 大助③ (バレーボール部)
 総務局長 川瀬 喜永② (剣道部)
 副局長 赤井 宏充③ (柔道部)
 文化局長 辰巳 理恵③ (放送部)
 副局長 今川 匡③ (軽音楽部)
 厚生局長 柴田 理志③ (硬式庭球部)
 副局長 内田 陽一郎③ (サッカー部)
 渉外広報局長 坂本 芳貴③ (ラグビー部)
 副局長 秋本 常久③ (旅行写真部)
 体育局長 天堀 智史③ (卓球部)
 副局長 中野 茂樹③ (漢法医学研究会)
 新聞ソケットボール
 委員長 森光 智奈美③ (バドミントン部)
 副委員長 宗形 希③ (華道部)

人事異動

併任 (平成6年4月1日付)

就職部長 稲森 善彦 (教授)
 図書館長 藤田 直 (教授)
 寮 監 望月伸三郎 (教授)
 研究委員長 保坂 康弘 (教授)
 実験センター長 玄番 宗一 (教授)
 図書課長 北氏 明正 (事務局次長)

昇任 (平成6年4月1日付)

助 教授 土井 光暢 (第一物理化学教室)
 講 師 田中 麗子 (化学I教室)
 助 手 西田 裕子 (第二衛生化学教室)
 助 手 井田 智子 (化学I教室)
 助 手 箕浦 克彦 (NMR室)
 助 手 芝野真喜雄 (第一生薬学教室)
 主 任 高橋 嘉明 (図書課)
 主 任 手島 尚 (経理課)

採用 (平成6年4月1日付)

助 手 平田 雅彦 (第一放射薬品学教室)
 助 手 山田 剛司 (第一薬化学教室)
 副 手 村上 暁子 (第二薬化学教室)
 事務局次長 北氏 明正 (事務局)
 事務職員 齋藤 貴博 (教務課)
 嘱託職員 讚木真理子 (図書課)

配置換 (平成6年4月1日付)

中下香代子 (庶務課係長・経理課係長より)
 手島 尚 (経理課主任・教務課事務職員より)

嘱託 (平成6年4月1日付)

森下 利明 (教授)
 塚本 好子 (助手)

退任 (平成6年3月31日付)

栗原 拓史教授・就職部長 (任期満了)
 沼田 敦教授・図書館長 (任期満了)
 坂田 勝治教授・寮監 (任期満了)
 玄番 宗一教授・研究委員長 (任期満了)
 掛見 正郎教授・実験動物センター所長 (任期満了)

定年退職 (平成6年3月31日付)

塚本 好子 (元素分析室)
 村上 昭 (図書課長兼資料室長)
 鍵田 喜平 (庶務課課長補佐)

退職 (平成5年12月31日付)

岩本 千佳 (第一薬化学教室)

解 嘱 (平成6年3月31日付)

井上 正敏 (教授)
 森下 利明 (教授)

非常勤講師 荒川尚男先生ご逝去

本学非常勤講師の荒川尚男先生が平成5年12月28日逝去されました (享年73歳)。

先生には永年にわたり、解剖学の授業を担当いただき、本学の教育に多大のご尽力をいただきました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

施設課だより

■ダイヤルイン電話方式の導入について

電話交換機の更新（クロスパー式からデジタル式へ）に伴い、平成6年3月28日（月）よりダイヤルイン方式が導入されました。

ダイヤルイン方式とは複数の契約回線を一本化し、

その数以上の電話機に個別の電話番号（発信・着信が可能）を持つことができるシステムのことであり、外線通話は契約回線以内の数なら同時に行うことができます。

このシステムの導入により、従来の電話に関する種々の不満（特に夜間の電話がかかりにくい等）は解消され、また交換業務の軽減、個別通話料金管理による通話料金の軽減等が期待できます。

大阪薬科大学 電話番号表 0723—37—のあとに続けてダイヤルしてください。

平成6年3月28日（月）より

部署名	番号	教室名	教員名	番号	教室名	教員名	番号	教室名	教員名	番号
学長秘書室	3202	第一薬化学	沼田教授	3220*	第一薬品製造学	栗原教授	3244*	哲 学	松島助教授	3264
事務局長室	3203		研究室	3221		春沢助教授	3245	倫 理 学	森下教授	3265
庶務課	3210	第二薬化学	有本助教授	3222	第二薬品製造学	赤木助教授	3246	経 済 学	阿部助教授	3266
経 理 課	3211	第一生薬学	草野教授	3223	第一物理化学	研究室	3247			
施 設 課	3212	第二生薬学	馬場助教授	3225*				第二物理化学	石田教授	3249*
教 務 課	3213	第一薬理学	森本教授	3226	第一放射薬品学	田中教授	3251	数 学	三谷助教授	3268
			松村助教授	3227*						
学 生 課 就 職	3214	第二薬理学	玄番教授	3228	第二放射薬品学	木村助教授	3253*	英 語	坂田教授	3270
	3215									
図 書 館 F A X	3216	第一衛生化学	藤田教授	3230	第一微生物学	稲森教授	3255*	ド イ ツ 語	碓井教授	3272
	3217									
実験動物センター (安田講師)	3277	第二衛生化学	研究室	3232	第二微生物学	保坂教授	3257	保 健 体 育	望月教授	3274
		第一分析化学	千熊教授	3233	黒田助教授	3258*	準備室			
マス測定室	3278	第二分析化学	森 教授	3235*	医 療 薬 学	中元助教授	3259	教養共同研究室	F A X	3276
元素分析室	3279									
電子顕微鏡室	3280	第一薬剤学	西野講師	3237	化 学 I	松村助教授	3262*	直通電話（従来どおり）		
情報処理室	3281									
N M R 室	3283	第二薬剤学	掛見教授	3239	生 物 学			代 表 電 話	0723-32-1015	
R I 研究施設 設 管 理 室	3253*	第一生化学	森本助教授	3240				学 生 寮		
			池田教授	3241	薬 用 植 物 園	0723-31-7450				
学 友 会	3284	第二生化学	研究室	3243	野 遠 グ ラ ン ド				0722-57-1412	
学 生 食 堂	3285									

注）番号のあとの*印は、FAX兼用機であることを示します。

卒業式

平成6年3月19日(土)、第41回大阪薬科大学学部卒業式並びに第18回大学院修了式(学部224名、大学院修士課程33名、博士後期課程1名)が来賓、父兄多数参列のもとに挙行された。



入学式

平成6年4月7日(木)、平成6年度大阪薬科大学および大学院入学式(学部357名、大学院修士課程43名、博士後期課程1名)が来賓、父兄多数参列のもとに挙行された。



平成6年度 前期行事予定

- 4月2日(土) } 第79回薬剤師国家試験(学説・実地)
- 4月3日(日)
- 4月7日(木) 平成6年度入学式(学部・大学院)
- 4月8日(金) 新入生ガイダンス
- 4月9日(土) 校医講演・新入生健康診断・アドバイザー面談
- 4月11日(月) 前期授業開始
就職ガイダンス・薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
- 4月19日(火) 健康診断(新入生以外の学生・教職員の女子)
- 4月20日(水) 健康診断(新入生以外の学生・教職員の男子)
- 4月23日(土) 前期選択科目・選択必修科目履修届提出締切(教務課)
基礎ゼミ(1年次生)受講希望願提出締切(教務課)
- 4月25日(月) 新入生奨学金ガイダンス
- 4月27日(水) 第79回薬剤師国家試験合格者発表
- 5月9日(月) 創立記念日(休業)
- 5月14日(土) 新入生歓迎会(五月祭)
- 6月11日(土) 第1回市民講座(松原市文化会館)
- 6月18日(土) 校友会ソフトボール大会
- 7月9日(土) 前期授業終了(4年次生)
- 7月11日(月) } 4年次生前期定期試験(4年次科目)
- 7月21日(木)
- 7月22日(金) 試験欠席届(4年次生・4年次科目)提出締切(教務課)
前期授業終了(1~3年次生)
- 7月22日(金) } 第1回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 7月23日(土)
- 7月23日(土) } 夏季休業
- 9月12日(月)
- 8月23日(火) 平成7年度大学院修士課程入学試験
- 9月1日(木) } 4年次生前期定期試験(1~3年次未修得科目)
- 9月10日(土)
- 9月12日(月) 試験欠席届(4年次生・1~3年次未修得科目)提出締切(教務課)
- 9月12日(月) } 第2回薬学総合演習総合試験(4年次生)
- 9月13日(火)
- 9月13日(火) } 前期定期試験(1~3年次生)
- 9月30日(金)
- 9月19日(月) 後期授業開始(4年次生)
- 9月19日(月) } 前期追試験(4年次生)
- 9月27日(火)
- 10月7日(金) 大阪薬科大学創立90周年記念式典

平成6年度
各部・委員会・委員

◎各部署の長
(平成6年6月1日現在)

教務部

加藤 義春(助教授)
松村 靖夫(助教授)
西野 隆雄(講師)

◎千熊 正彦(教授)

馬場きみ江(助教授)
土井 光暢(助教授)

学生部

望月伸三郎(教授)
松村 瑛子(助教授)
土井 光暢(助教授)

◎森 逸男(教授)

赤木 昌夫(助教授)
春沢 信哉(助教授)

就職部

沼田 敦(教授)
松村 瑛子(助教授)
大桃 善朗(助教授)

◎稲森 善彦(教授)

藤田 直(教授)
辻坊 裕(助教授)

図書館

三野 芳紀(助教授)
楠瀬 健昭(講師)

◎藤田 直(教授)

藤田 芳一(助教授)

学生寮

森 逸男(教授)
濱中久美子(助教授)

◎望月伸三郎(教授)

馬場きみ江(助教授)
藤本 陽子(助教授)

薬用植物園

松永 春洋(教授)
馬場きみ江(助教授)
三野 芳紀(助教授)
喜多 俊二(助手)
芝野真喜雄(助手)

◎草野源次郎(教授)

沼田 敦(教授)
木村捷二郎(助教授)
西野 隆雄(講師)
谷口 雅彦(助手)
森本 武司(事務局次長
施設課長)

実験動物センター運営委員会

藤田 直(教授)
保坂 康弘(教授)
松村 靖夫(助教授)
西野 隆雄(講師)

◎玄番 宗一(教授)

池田 潔(教授)
松村 瑛子(助教授)
安田 正秀(講師)

総務委員会

森本 史郎(教授)
沼田 敦(教授)
栗原 拓史(教授)
稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授)

◎久保田晴寿(学長)

森 逸男(教授)
藤田 直(教授)
池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)
河野 光次(事務局長)

施設委員会

森本 史郎(教授)
沼田 敦(教授)
栗原 拓史(教授)
保坂 康弘(教授)
河野 光次(事務局長)

◎久保田晴寿(学長)

森 逸男(教授)
藤田 直(教授)
池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)

研究委員会

沼田 敦(教授)
大桃 善朗(助教授)

◎保坂 康弘(教授)

森本 一洋(助教授)

排水処理委員会

森本 史郎(教授)
松村 靖夫(助教授)

◎松永 春洋(教授)

木村捷二郎(助教授)

R I 施設運営委員会

森本 史郎(教授)
保坂 康弘(教授)
稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授)
掛見 正郎(教授)
河野 光次(事務局長)

◎田中 千秋(教授)

沼田 敦(教授)
玄番 宗一(教授)
石田 寿昌(教授)
草野源次郎(教授)
木村捷二郎(助教授)

大学院小委員会

千熊 正彦(教授)

◎池田 潔(教授)

掛見 正郎(教授)

広報委員会

赤木 昌夫(助教授)
北氏 明正(事務局次長
図書課長)

◎藤田 直(教授)

西野 隆雄(講師)
伊藤 美雄(庶務課長)

公開教育講座委員会

森本 史郎(教授)
石田 寿昌(教授)
森本 一洋(助教授)

◎掛見 正郎(教授)

玄番 宗一(教授)
中元 安雄(助教授)
西野 隆雄(講師)

市民講座委員会

石田 寿昌(教授)

◎森本 史郎(教授)

掛見 正郎(教授)

動物実験委員会 ◎池田 潔(教授)
藤田 直(教授) 保坂 康弘(教授)
玄番 宗一(教授) 掛見 正郎(教授)
松村 瑛子(助教授) 松村 靖夫(助教授)
安田 正秀(講師) 西野 隆雄(講師)
伊藤 美雄(庶務課長)

組換えDNA実験安全委員会 ◎保坂 康弘(教授)
森本 史郎(教授) 田中 千秋(教授)
森下 利明(教授) 池田 潔(教授)
稲森 善彦(教授) 石田 寿昌(教授)
黒田 和道(助教授) 細川 康(学外)
伊藤 美雄(庶務課長)

医療薬学実習委員会 ◎掛見 正郎(教授)
千熊 正彦(教授) 赤木 昌夫(助教授)
中元 安雄(助教授) 三野 芳紀(助教授)
森本 一洋(助教授) 土井 光暢(助教授)
西野 隆雄(講師)

バイオハザード予防委員会 ◎稲森 善彦(教授)
田中 千秋(教授) 池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授) 松村 瑛子(助教授)
安田 正秀(講師)

防火対策委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森本 史郎(教授) 森 逸男(教授)
栗原 拓史(教授) 稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授) 河野 光次(事務局長)
森本 武司(事務局次長
施設課長) 伊藤 美雄(庶務課長)
高橋 正好(教務課長) 井頭 八郎(学生課長)

建設委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森 逸男(教授) 藤田 直(教授)
池田 潔(教授) 望月伸三郎(教授)
玄番 宗一(教授) 石田 寿昌(教授)
千熊 正彦(教授) 草野源次郎(教授)
河野 光次(事務局長)

新キャンパス建設計画委員会 ◎堀田 輝明(理事)
大村栄之助(理事長) 久保田晴寿(学長)
大木 令司(理事) 池田 潔(評議員)
石田 寿昌(評議員) 香月 英男(評議員)

千熊 正彦(教務部長) 河野 光次(事務局長)
森本 武司(事務局次長
施設課長)

情報処理室運営委員会 ◎石田 寿昌(教授)
森 逸男(教授) 保坂 康弘(教授)
土井 勝(教授) 千熊 正彦(教授)
掛見 正郎(教授) 土井 光暢(助教授)
大石 宏文(助手) 高橋 正好(教務課長)
井頭 八郎(学生課長)

入試委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森 逸男(教授) 沼田 敦(教授)
碓井 信二(教授) 土井 勝(教授)
坂田 勝治(教授) 千熊 正彦(教授)

薬剤師国家試験対策委員会 ◎掛見 正郎(教授)
松永 春洋(教授) 玄番 宗一(教授)
石田 寿昌(教授) 藤本 陽子(助教授)

大型共同機器整備計画委員会 ◎保坂 康弘(教授)
沼田 敦(教授) 藤田 直(教授)
玄番 宗一(教授) 土井 勝(教授)
石田 寿昌(教授) 木村捷二郎(助教授)
松村 瑛子(助教授) 三野 芳紀(助教授)

人権委員会 ◎森 逸男(教授)
森下 利明(教授) 稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授) 阿部 功(助教授)
井頭 八郎(学生課長)

自己評価検討委員会準備委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森 逸男(教授) 藤田 直(教授)
碓井 信二(教授) 池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授) 千熊 正彦(教授)
木村捷二郎(助教授) 松村 瑛子(助教授)

ケミカルハザード委員会 ◎松永 春洋(教授)
赤木 昌夫(助教授)

創立90周年記念式典委員会 ◎久保田晴寿(学長)
森本 史郎(理事) 栗原 拓史(理事)
沼田 敦(評議員) 梶川 益美(同窓会長)
高橋 市子(同窓会副会長) 河野 光次(事務局長)

教員研究業績一覽 (1993年)

(1993. 1. 1~12. 31)

1. 研究学術論文

著者	題目	掲載誌
尹 康子, 石田寿昌, 他	Structures of riboflavin tetraacetate and tetra-butyrate: Molecular packing mode of riboflavin tetracarboxylate and its extensive stacking and hydrogen-bonding characteristics	Acta Crystallogr., Sect B, 49, 136 (1993)
土井光暢, 尹 康子, 猪熊健二, 井上正敏, 石田寿昌	Structure of Boc-Phe-D-Leu-OMe	Acta Crystallogr., Sect C, 49, 1528 (1993)
土井光暢, 尹 康子, 田中正幸, 井上正敏, 石田寿昌	Structure of Boc-Phe-D-Leu-Thr-OMe	Acta Crystallogr., Sect C, 49, 1530 (1993)
石田寿昌, 尹 康子, 井上正敏, 他	Solid-state features of (-)-corycavine, an optically active protopine alkaloid	Arch. Pharm., 326, 501 (1993)
石田寿昌, 尹 康子, 井上正敏, 他	Conformational studies of hexahydro-benzo [c]phenanthridine alkaloids: Solid and solution conformations of deoxycorynoline	Arch. Pharm., 326, 507 (1993)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Conformational difference between diastereomers of Dnp-Val-Aib-Gly-Leu-pNA studied by X-ray crystal analyses	Biopolymers, 33, 813 (1993)
尹 康子, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌, 他	X-ray structural investigation of the chiral recognition of brucine in salt formation with an N-protected amino acid, N-phthaloyl-threo- β -hydroxy-D-and L-leucine	Bull. Chem. Soc. Jpn., 66, 1501 (1993)
加福やよい, 大西順子, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌	Recognition of nucleic acid base by tryptophan-containing peptides: Spectroscopic study on interaction of N-acetyl Trp-(Gly) n -Trp-NHCH ₃ (m=0-2, n=0-2) with guanine base	Chem. Pharm. Bull., 41, 231 (1993)
石田寿昌, 長田裕臣, 尹 康子, 土井光暢, 井上正敏, 他	X-ray crystal structure of L-tryptophanpicric acid charge-transfer complex and comparison with DL-tryptophan-picric acid complex	Chem. Pharm. Bull., 41, 433 (1993)
石田寿昌, 尹 康子, 平瀬有紀, 志保田幸司, 井上正敏, 他	Conformational features of 5'-O-[N-(L-alanyl) sulfamoyl] adenosine, a substrate analogue of alanyl-tRNA synthetase, studied by ¹ H-NMR and energy calculation methods	Chem. Pharm. Bull., 41, 804 (1993)
土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌, 他	Dehatrine, an antimalarial bisbenzylisoquinoline alkaloid from the indonesian medicinal plant beilschmiedia madang, isolated as a mixture of two rotational isomers	Chem. Pharm. Bull., 41, 997 (1993)

著 者	題 目	掲 載 誌
尹 康子, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌, 他	Molecular conformation of patellamide A, a cytotoxic cyclic peptide from the ascidian <i>lissoclinum patella</i> , by X-ray crystal analysis	Chem. Pharm. Bull., 41, 1686 (1993)
石田寿昌, 他	Chemical transformation of terpenoids.IX. Ionophoretic activities of macrocyclic lactone epoxides synthesized from <i>E,E</i> -farnesol	Chem. Pharm. Bull., 41, 2113 (1993)
大野保則, 瀬川元住, 大石宏文, 土井光暢, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Conformation of deltorphin-II in membrane environment studied by two-dimensional NMR spectroscopy and molecular dynamics calculations	Eur. J. Biochem., 212, 185 (1993)
猪原武男, 樽井麻里子, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌	Interaction of mutagenic tryptophan pyrolysate with DNA CD spectral study on the binding specificity	FEBS Lett., 324, 301 (1993)
石田寿昌, 樽井麻里子, 尹 康子, 荻山美千代, 土井光暢, 井上正敏	Cooperative face-to-face and edge-to-face aromatic interactions of tryptophan indole ring with N7-quarternized guanine and neutral cytosine bases	FEBS Lett., 333, 214 (1993)
友尾幸司, 藤井 忍, 石田寿昌, 井上正敏, 池田 潔, 他	Crystallization and preliminary X-ray study of agkistrodon halys blomhoffii phospholipase A2 complexed with a specific inhibitor	J. Biochem., 113, 441 (1993)
石田寿昌, 大野保則, 瀬川元住, 大石宏文, 土井光暢, 井上正敏, 他	Conformational characteristics of dermorphin and deltorphin-II in aqueous solution and dodecylphosphocholine micelles, studied by proton NMR spectroscopy	Pept. Chem., 1992, 250 (1993)
藤川昭彦, 尹 康子, 浦田秀仁, 井上正敏, 石田寿昌, 他	Stereostructure of aureobasidine E, a new type of potent antifungal antibiotic	Pept. Chem., 1992, 255 (1993)
山元 淳, 石田寿昌, 他	Development of reversible inhibitors against thiol proteinases and studied on the binding mode of the inhibitor with papain	Pept. Chem., 1992, 499 (1993)
大石宏文, 小川雅史	Structure-activity relationship of 3,3'-dihydroxy- α , β -diethyldiphenylethane and its related compounds	Chem. Pharm. Bull., 41, 1157 (1993)
大石宏文, 石田寿昌, 他	Conformational studies of semotiadil (SD-3211), a novel Ca ²⁺ antagonist	Chem. Pharm. Bull., 41, 1681 (1993)
大石宏文, 藤井 忍, 友尾幸司, 石田寿昌, 池田 潔, 他	Molecular dynamics simulation of 1,2-dilauroyl-L-phosphatidyl-ethanolamine binding to phospholipase A ₂ : an attempt of explanation for selective hydrolysis of substrate fatty acid ester at position 2	J. Biochem., 114, 210 (1993)
森 逸男, 藤田芳一, 松尾敬子, 中村昌樹	Fluorophotometric determination of glucuronic acid using the fluorescence-reaction with N-benzyl-2-naphthylamine	Anal. Lett., 26, 1181 (1993)

著 者	題 目	掲 載 誌
藤田芳一, 森 逸男, 豊田美奈子, 松尾敬子	Determination of Silver(I) by an association complex formation between silver-adenine and eosin	Anal. Sci., 9, 829 (1993)
藤田芳一, 森 逸男, 豊田美奈子, 田口一彦	クロムアズロールB-ベリリウム(II)錯体との呈色反応に基づくフェノチアジン系及び類縁薬物の定量	分析化学 42, T1 (1993)
千熊正彦, 青木洋之, 他	テルル(IV)を選択的に吸着するキレート生成樹脂を用いる微量テルルの分離濃縮と黒鉛炉原子吸光分析	Biomed. Res. Trace Element, 4, 53 (1993)
佐藤卓史, 北島 文, 大本佐智子, 千熊正彦, 他	Determination of human immunoglobulin A and secretory immunoglobulin A in bronchoalveolar lavage fluids by solid phase enzyme immunoassay	Clin. Chim. Acta, 220, 145 (1993)
千熊正彦, 青木洋之	Preconcentration of lead(II) in environmental waters using a chelating resin and subsequent determination as a resin-water suspension by hydride generation atomic absorption spectrometry	J. Anal. Atomic Spectrom., 8, 415 (1993)
齊藤睦弘, 千熊正彦,	Chromatographic analysis of the reaction between thiosalicylic acid and selenious acid in methanol	J. Chromatogr., 635, 71 (1993)
青木洋之, 村上仁美, 千熊正彦	ジチゾンのスルホン酸誘導体を固定化した陰イオン交換樹脂によるパラジウム(II)の分離 —樹脂懸濁液の導入法による超微量パラジウム(II)の黒鉛炉原子吸光分析—	分析化学, 42, T147 (1993)
大桃善朗, 平田雅彦, 他	High reactivity of [¹⁴ C] CH ₃ I with thiol group in the synthesis of C-11 labeled radiopharmaceuticals.	Ann. Nucl. Med., 7, 173 (1993)
大桃善朗, 平田雅彦, 村上勝彦, 田中千秋, 他	Synthesis and characterization of ¹¹ C-labeled fluorocloglyline: a monoamine oxidase A specific inhibitor for positron emission tomography.	Chem. Pharm. Bull., 41 1994 (1993)
河合健蔵, 高橋千佳, 沼田 敦, 他	Juvenile hormone activity of juvabione analogues against <i>Pyrrhocoris apterus</i> (Hemiptera: Pyrrhocoridae)	Appl. Entomol. Zool., 28 118 (1993)
河合健蔵, 高橋千佳, 宮本多美江, 沼田 敦, 他	Chemical differences between two populations of <i>Abies sachalinensis</i>	Phytochemistry, 32, 331 (1993)
河合健蔵, 高橋千佳, 高田多美江, 沼田 敦	Juvabione analogues from two <i>Abies sachalinensis</i> trees	Phytochemistry, 32, 1163 (1993)
沼田 敦, 高橋千佳, 伊藤義典, 高田多美江, 河合健蔵, 宇佐美吉英, 松村瑛子, 他	Communesins, cytotoxic metabolites of a fungus isolated from a marine alga	Tetrahedron Lett., 34, 2355 (1993)
栗原拓史, 坂本靖彦, 高井雅人, 大内かおり, 春沢信哉, 米田龍司	Meisenheimer rearrangement of azetopyridoindoles. III. Synthesis of 3,6-epoxyhexahydroazocino [5,4-b] indoles	Chem. Pharm. Bull., 41 1221 (1993)

著 者	題 目	掲 載 誌
栗原拓史, 坂本靖彦, 塚本貴庸子, 大石宏文, 春沢信哉, 米田龍司	Meisenheimer rearrangement of azetopyri- doindoles. part 4. Ring expansion of 2-vinyl- 1, 2, 4, 5, 10, 10b-hexahydroazeto[1', 2':1, 2]- pyrido[3, 4-b] indole N-oxides	J. Chem. Soc. Perkin Trans., 1, 81 (1993)
栗原拓史, 丹野寛勝, 竹村茂隆, 春沢信哉, 米田龍司	Synthesis of C-nor-4, 6-secocamptothecin and related compounds	J. Heterocyclic Chem., 30, 643 (1993)
春沢信哉, 竹村茂隆, 大崎浩孝, 米田龍司, 栗原拓史,	[3, 3] Sigmatropic ring expansion of cyclic thionocarbonates. 9. Total synthesis of (±)- yellow scale pheromone via 10-membered thiolcarbonate	Tetrahedron, 49, 7657 (1993)
春沢信哉, 竹村茂隆, 米田龍司, 栗原拓史,	[3, 3] Sigmatropic ring expansion of cyclic thionocarbonates. 12. Synthesis of (-)-yellow scale pheromone	Tetrahedron, 49, 10577 (1993)
浦田秀仁, 上田義明, 宇佐美吉英, 赤木昌夫	Enantiospecific recognition of DNA by bleo- mycin	J. Am. Chem. Soc., 115, 7135 (1993)
浦田秀仁, 上田義明, 赤木昌夫, 他	NMR study of a heterochiral DNA stable Watson-Crick-type base-pairing between the enantiomeric residues	J. Am. Chem. Soc., 115, 9852 (1993)
土井光暢, 井上正敏, 友尾幸司, 石田寿昌, 上田義明, 赤木昌夫, 浦田秀仁	Structural characteristics of enantiomorphic DNA: Crystal analysis of racemates of the d(CGCGCG) duplex	J. Am. Chem. Soc., 115, 10432 (1993)
赤木昌夫, 他	Hydrogen bonding of aromatic amines in hydroxylic solvents. Part 1. Absorption spectroscopy of substituted anilines and hydrogen bond-induced rehybridization of trivalent nitrogen atoms	J. Phys. Org. Chem., 6, 261 (1993)
浦田秀仁, 赤木昌夫	A convenient synthesis of oligonucleotides with a 3'-phosphoglicolate and 3'-phospho- glycaldehyde terminus	Tetrahedron Lett., 34, 4015 (1993)
草野源次郎, 他	Revised structures of flavidulols, constituents of <i>Lactarius flavidulus</i> Imai, and the struc- ture of flavidulol D	Chem. Pharm. Bull., 41, 2032 (1993)
草野源次郎, 芝野真喜雄, 伊堂寺真弓, 箕浦克彦, 他	A new alkaloid, 2-hydroxy-7-methyl-9H-car bazole from <i>Cimicifuga simplex</i>	Heterocycles, 36, 2367 (2367)
草野源次郎, 他	β -Cyano-L-alanine and N-(γ -L-glutamyl)- β -cyano-L-alanine, neurotoxic constituents of <i>Clitocybe acromelalga</i>	Phytochemistry, 33, 55 (1993)
三野芳紀, 宇佐美秀子, 井上晴嗣, 池田 潔, 太田長世	Protein chemotaxonomy of <i>Genus Datura</i> ; Identical amino acid sequence of ferredoxin from two varieties of <i>Datura stramonium</i>	Phytochemistry, 33, 601 (1993)
草野源次郎, 木村捷二郎, 他	Specific recognition of mugineic acid-ferric complex by barley roots	Phytochemistry, 34, 599 (1993)

著 者	題 目	掲 載 誌
大石宏文, 尹 康子, 草野源次郎, 他	Roseolide A, a novel dimeric drimane sesquiterpenoid from the basidiomycete <i>Roseoformes subflexibilis</i>	Tetrahedron Lett., 34, 2497 (1993)
馬場きみ江, 谷口雅彦, 小澤 貢	Stereochemistry of the spirobiflavonoid genkwanol B from <i>Daphne genkwa</i>	Phytochemistry, 32, 221 (1993)
馬場きみ江, 谷口雅彦, 小澤 貢	A Third spirobiflavonoid genkwanol C from <i>Daphne genkwa</i>	Phytochemistry, 33, 913 (1993)
馬場きみ江, 小澤 貢, 他	生薬資源の研究 (第8報) 生薬「何首烏」中の 2, 3, 5, 4'-tetrahydroxystilbene-2-O- β -D-Glucoside の分布と公定試験法について	生薬学雑誌, 47, 411 (1993)
谷 健, 藤井 忍, 池田 潔, 他	Synthesis of oxazolidinone phospholipid analogue as a new inhibitor of phospholipase A ₂	Bioorg. Med. Chem. Lett., 3, 2703 (1993)
羽田修二, 藤井 忍, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Hydrolysis of micellar diheptanoylphosphatidylcholine catalyzed by bovine pancreatic phospholipase A ₂ : kinetic characterization of group I and II enzymes	J. Biochem., 113, 13 (1993)
大蔵直樹, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Isolation and amino acid sequence of a phospholipase A ₂ inhibitor from the blood plasma of <i>Agkistrodon blomhoffii siniticus</i>	J. Biochem., 113, 413 (1993)
隅谷俊紀, 藤本陽子, 西田裕子, 森川百合世, 佐久間覚, 藤田 直	Effect of reactive oxygen species on arachidonic acid metabolism in rabbit platelets	Free Rad. Biol. Med., 15, 101 (1993)
藤本陽子, 隅谷俊紀, 角森正英, 西田裕子, 佐久間覚, 藤田 直	Effect of 13-hydroperoxy-9, 11-octadecadienoic acid (13-HPODE) on arachidonic acid metabolism in rabbit platelets	Int. J. Biochem., 26, 127 (1993)
藤本陽子, 西田裕子, 内田敬子, 辻由美子, 佐久間覚, 藤田 直	Effect of Cu ²⁺ on prostaglandin synthesis and catabolism in rabbit gastric antral mucosal slices <i>in vitro</i>	J. Clin. Biochem. Nutr., 14, 45 (1993)
佐久間覚, 藤本陽子, 中川治雄, 蜂木佐和子, 西田裕子, 藤田 直	Effect of 13-hydroperoxyoctadecadienoic acid on 15-hydroxy prostaglandin dehydrogenase activity in rabbit kidney cortex	Prostaglandins, 46, 157 (1993)
稻田裕彦, 水口和枝, 片山和憲, 掛見正郎, 小泉 保,	Two-layer membrane model for iontophoretic drug transport through excised rat skin	Biol. Pharm. Bull., 16, 589 (1993)
小泉 保, 掛見正郎, 片山和憲	Kinetics of combined action	J. Pharmacokinet. Biopharm., 21, 593 (1993)
森本一洋, 他	Dipeptide transport across rat alveolar epithelial cell monolayers	Pharm. Res., 10, 1668 (1993)
松村靖夫, 藤田克哉, 高岡昌徳, 森本史郎	Big endothelin-3-induced hypertension and its inhibition by phosphoramidon in anaesthetized rats	Eur. J. Pharmacol., 230, 89 (1993)

著 者	題 目	掲 載 誌
久木一弘, 松村靖夫, 西口純加, 藤田克哉, 高岡昌徳, 森本史郎	Endothelium-independent pressor effect of big endothelin-1 and its inhibition by phosphoramidon in rat mesenteric artery	Eur. J. Pharmacol., 241, 75 (1993)
高岡昌徳, 森本史郎, 他	Tissue kallikrein in the rat pineal gland: An immunocytochemical study	J. Pineal Res., 14, 84 (1993)
塚原八重子, 松村靖夫, 国延和子, 児島たか子, 高岡昌徳, 森本史郎	Phosphoramidon-sensitive endothelin converting enzyme in cultured vascular smooth muscle cells converts big endothelin-3 to endothelin-3	Life Sci., 53, 465 (1993)
安田正秀, 玄番宗一, 他	Synthesis of Met- and Leu-enkephalin analogues containing chiral N,N'-ethylene-bridged phenylalanyl-methionine and -leucine	J. Chem. Soc. Perkin Trans. 1, 933 (1993)
楊 秀珍, 保坂康弘, 他	Immortalization of rabbit corneal epithelial cells by a recombinant SV40-adenovirus vector	Invest. Ophthalmol. Visual Sci., 34, 2665 (1993)
保坂康弘, 他	Immunolectron microscopy of parainfluenza virion glycoproteins with polyclonal and monoclonal antibodies: movement of glycoprotein with monoclonal antibody	J. Electron Microsc., 42, 346 (1993)
楊 秀珍, 松田信之, 鶴岡浩志, 保坂康弘, 他	Electron Microscopy of influenza virus growth in a human lymphoblastic leukemia cell line, MOLT4 cells	J. Electron Microsc., 42, 394 (1993)
辻坊 裕, 箕浦克彦, 宮本勝城, 遠藤 博, 森脇将光, 稲森善彦	Purification and properties of a thermostable chitinase from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520	Appl. Environ. Microbiol., 59, 620 (1993)
辻坊 裕, 折越英介, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Site-directed mutagenesis of chitinase from <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	Biosci. Biotech. Biochem., 57, 1396 (1993)
稲森善彦, 辻坊 裕, 大石宏文, 他	Cytotoxic effect of hinokitiol and tropolone on the growth of mammalian cells and on blastogenesis of mouse splenic T cells	Biol. Pharm. Bull., 16, 521 (1993)
稲森善彦, 室 親明, 吉岡三幸, 山田真澄, 辻坊 裕, 草野源二郎, 他	Phytogrowth-inhibitory activities of sulfur-containing compounds. II. The inhibitory activities of thiosalicylic acid and dihydro-2(3H)-thiophenone-related compounds on plant growth	Biol. Pharm. Bull., 16, 813 (1993)
辻坊 裕, 遠藤 博, 箕浦克彦, 宮本勝城, 稲森善彦	Cloning and sequence analysis of the gene encoding a thermostable chitinase from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520	Gene, 134, 113 (1993)
辻坊 裕, 宮本勝城, 田中和美, 河井 実, 田井中健司, 稲森善彦, 他	Cloning and sequence of an alkaline serine protease-encoding gene from the marine bacterium <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	Gene, 136, 247 (1993)
辻坊 裕, 折越英介, 丹野博美, 藤本和博, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Cloning, sequence, and expression of a chitinase gene from a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	J. Bacteriol., 175, 176 (1993)
田中麗子, 高岡義和, 山口治彦, 松永春洋	3 β -Methoxycycloartan-27-oic acid and other constituents from the leaves of <i>Pseudotsuga japonica</i>	J. Nat. Prod., 56, 1753 (1993)

著 者	題 目	掲 載 誌
松永春洋, 田中麗子, 高岡義和, 尹 康子, 石田寿昌, 他	26-Nor-D : A-friedooleane triterpenes from <i>Phyllanthus watsonii</i>	Phytochemistry, 32, 165 (1993)
田中麗子, 増田紀美代, 松永春洋	Lup-20(29)-en-3 β , 15 α -diol and ocotillol-II from the stem bark of <i>Phyllanthus Flexuosus</i>	Phytochemistry, 32, 472 (1993)
土井 勝, 他	Neutrinoless modes of double beta decay	Progress of Theoretical Physics, 89, 139 (1993)
楠瀬健昭	ホプキンズ『人間の美しさ』について	とい, XIII, 24 (1993)
楠瀬健昭	Changing Aspects of Male-Female Relation- ships (I)	ばいでいあ, 17, 3 (1993)
楠瀬健昭	"Morning, Midday. and Evening Sacrifice" について	NONDUM, 7, 112 (1993)
楠瀬健昭	ロレンスの三重奏	ALBION, 39, 70 (1993)

2. シンポジウム

著 者	題 目	掲 載 誌
石田寿昌	Molecular design of cathepsin-B specific inhibitor based on crystal structure of papain-E-64-c complex	International Symposium on the Frontiers of Peptide- Protein Chemistry and Bio- technology (1993)
石田寿昌	Structure and activity of thiol protease in- hibitor	Symposium on Molecular Structure (1993)
大石宏文, 室 親明, 辻坊 裕, 稲森善彦	The study of relationship between the stru- cture of 1,4-dithiane derivatives (Phyto- growth-inhibitor) and its activity	21th Symposium on Struc- ture-Activity Rerationship, 269 (1993)
平田雅彦, 大桃善朗, 田中千秋, 他	Radioiodinated clorgyline derivative for mapping MAO-A activity in brain with SPECT	J. Labelled Compd. Radio- pharm., 32, 204 (1993)
木村捷二郎, 他	A study on factors of variation in environ- mental radiation -Concerning natural radio- nuclides in soils-	Proceeding of Asia Con- gress on Radiation Protec- tion, 545 (1993)
木村捷二郎, 前田茂雄, 他	Preparation of tritium free water using synthesis apparatus composed of electrolysis and low temperature oxidation, and BKG- Value on Tri-Carb 1050 LSA	Proceeding of the 5rd International Seminar for Liquid Scintillation Analy- sis, 206 (1993)
春沢信哉, 加瀬尚毅, 大石宏文, 米田龍司, 栗原拓史	{3,3} Sigmatropic ring expansion of medium- sized cyclic thionocarbonates: Synthesis of medium-membered heterocyclic allenes and its synthetic application	19th Symposium on prog- ress in organic reactions and syntheses. -Application in the life sciences- Abstracts, 230 (1993)
栗原拓史, 高井雅人, 春沢信哉, 米田龍司, 坂本増彦	Meisenheimer rearrangement of 2-vinylazeto- pyridoindeole N-oxides: Synthesis of 12-carb- aedeutostomin and related compounds	24th Congress of Heterocy- clic Chemistry., Abstracts, 45 (1993)
浦田秀仁, 上田義明, 赤木昌夫, 他	Spectroscopic characterization of hetrochiral DNAs	Nucleic Acids Symposium Series, 29, 69 (1993)

著者	題目	掲載誌
赤木昌夫, 他	Hydrogen bonding of highly polar aromatic amines in hydroxylic solvents. Intramolecular charge-transfer interaction dependent upon the dihedral angle between amino moiety and aromatic nucleus in aryl amines	16th. International Conference on Photochemistry, 306 (1993)
田中麗子, 溝田智史, 松永春洋	オオシラビン樹皮の含有するトリテルペノイド成分の研究	第37回テルペン・香料及び精油化学に関する討論会講演要旨集 59 (1993)
(追補 1992) 田中麗子, 石田寿昌, 松永春洋	The structure and anti-tumor-promoting activity of triterpenoids bearing a novel skeletal system from <i>Picea jezoensis</i>	18th IUPAC international symposium on the chemistry of natural products. Symposium papers, 182 (Sept., 1992. Strasbourg)

3. 紀要・総説・解説・翻訳・他

著者	題目	書名または掲載誌 (出版社)
大石宏文	Xtal system の変遷とその利用法	大阪大学蛋白質工学基礎研究センターだより, 14, 31 (1993)
千熊正彦	ICP 発光分析法	化学と薬学の教室, 110, 10 (1993)
木村捷二郎, 古谷順良, 他	Radio-sensitivities of macroorganisms adhering to the crude drug "Glycyrrhizae Radix"	Bull. of the University of Osaka Prefecture, Series B, 45, 93 (1993)
森本一洋	経肺吸収研究の現状	Pharm Tech Japan, 9, 69 (689) (1993)
保坂康弘, 黒田和道	ウイルス抗原のプロセッシングと提示機構	ウイルス (日本ウイルス学会) 43, 129 (1993)
保坂康弘	ウイルス抗原のプロセッシングと提示機構	臨床免疫 (科学評論社) 25, 671 (1993)
松永春洋	癌の予防・治療薬の開発 有望な寒冷地の松科植物の樹皮と葉の含有成分	おおさかみどりと技術だより 第5号 p. 1, 大阪宮林局発行 (1993)
松島哲久	第11章 農薬の問題, 序論	環境の倫理 (下), シュレーダー=フレチュット編, 晃洋書房, 503 (1993)
松島哲久	農薬の毒性と発ガンの可能性 (H. F. クレイビル著)	環境の倫理 (下), シュレーダー=フレチュット編, 晃洋書房, 509 (1993)
松島哲久	第10章 ケルケゴールの自己論 (D. ハンプソン著)	ケルケゴール—新しい解釈の試み, A. マッキノン他著, 昭和堂, 220 (1993)
松島哲久	第4章 空虚な主体性と失われた生—カントによる「魂」についての批判	精神分析の系譜—失われた始源, ミシェル・アンリ著, 松島哲久他訳, 法政大学出版局, 155 (1993)
(追補 1992) 藤田直, 藤本陽子	生体組織における活性酸素, 過酸化脂質の生成と防御機構	日本病院薬剤師会雑誌, 28, 11 (1992)

4. 著書

著者	書名	出版社
千熊正彦, 他	生物無機化学 第2版	廣川書店 (1993)
木村捷二郎, 泰松明子, 他	Radioisotopes, 42. γ線照射によるペプシン製剤の酵素活性の変化	
栗原拓史, 他	有機薬品製造化学 第2版	廣川書店 (1993)
井上晴嗣, 池田 潔, 他	Toxin-related diseases PART IV 10. Elapidae venoms	OXFORD & IBH PUBLISHING CO. PVT. LTD. (1993)
池田 潔, 他	酵素実験法 I 3. 4. 3 蛍光測定法 3. 4. 4 円二色性 (CD) 測定法	廣川書店 (1993)
池田 潔	第2版 レーニンジャの新生化学 上 第4章 水: 溶解した生体分子に及ぼす影響 第6章 タンパク質入門	廣川書店 (1993)
藤田 直	化学と薬学の教室 生体組織におけるアラキドン酸の代謝経路	廣川書店 (1993)
玄番宗一, 森本史郎, 他	疾患別薬理学 第2版	廣川書店 (1993)
玄番宗一, 他	トキシコロジー用語集	薬業時報社 (1993)
保坂康弘	かたちの科学 (最新科学論シリーズ 24), ウイルスの幾何学	学研社, (1993)
辻坊 裕, 折越英介, 藤本和博, 丹野博美, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Chitin enzymology Cloning, sequence, and expression of genes encoding chitinase and chitobiase from a marine bacterium <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	Ancona, Italy (1993)
阿部 功	河川情報研究 情報ネットワーク社会における広報	(財) 河川情報センター (1993)
阿部 功	京都近未来譜 2 「都市のしつらい」, 12 「京は静かに眠るべきか」, 22 「あらがいの果て」, 26 「遊びと業いのむつびごと」, 33 「風の道とゆらぐ影」, 42 「京と京風・京風味」	京都新聞, 4月14日, 6月23日, 8月18日, 9月15日, 11月3日, 12月22日号
小原信・森下直貴編, 松島哲久	日本社会と生命倫理, ターミナル・ケアの可能性と死の意味 —日本の宗教性への問いかけ	以文社 (1993)
(追補 1992) 木村捷二郎, 他	Radiation Protection Dosimetry, 45. Radon concentration, absorbed dose rate in air and concentration of natural radionuclides in soil in the Osaka district of japan	
辻彰編集, 森本一洋, 他	わかりやすい物理薬剤学, 第5章界面現象, 第8章各種剤形と物理薬剤学 8, 3 半固形製剤	廣川書店 (1992)



親和会だより

明治村と犬山城への旅

修論の発表会も終り、一週間後に卒業式を控え、一段落する3月12日(土)に恒例となっております親和会旅行が執り行われました。今年は参加者が少なめですが、会員37名の参加を得て、午後1時過ぎに本学を出発し、目的地の長良川温泉へと旅立ちました。出発時は生憎小雨、名神高速を東へ向かう道中、本降りになってしまった。バスの中、明日の天気を気遣いながら予定どおり、宿である岐阜観光ホテル十八楼に無事到着しました。

この日は第二土曜とあってホテルもたて込んでおり、ゆっくりと温泉で疲れを癒してもらえませんが、大広間で沼田先生に乾杯の音頭をとって頂き、宴会が始まりました。日頃疎遠になっておられる会員同士、和やかな雰囲気の中で談笑しながら、お酒をくみかわしました。その間、ビンゴゲーム、カラオケ大会並びに野球拳で宴会を盛り上げて頂き

ました。宴会後、歓楽街柳ヶ瀬へのオプションルツァー-或いは麻雀等、グループに分かれ時の経つのも忘れ楽しみました。

翌朝6時に起床、昨日の雨がウソのように天候が回復し、ほっとした気持でゆっくりと朝風呂に入りました。8時過ぎに朝食をいただき、9時半、宿に別れを告げ、次の目的地の明治村へ向かいました。広大な土地に点在する明治時代の建物に、日本が近代化へと邁進する息吹を感じ、明治の心を象徴していました。ドライブインで昼食をとった後、戦国時代の要所をなす、木曾川沿いの小高い山に君臨する国宝犬山城を散策しました。天守閣から四方を見渡せ、一国の城主としての気持ちを味わった訳であります。午後2時30分頃、バスに乗り込み、睡魔と戦いながら帰路につき、夕刻無事本学に戻って参りました。

最後に幹事の数々の不行届きにも拘らず、旅行をつつが無く終えることができたのも、会員の皆様方のご協力の賜と幹事一同心よりお礼申し上げます。又、この旅行の準備にあたり、奔走してくれました宇佐美さん、増家さん、宮崎(優)さんに心より感謝致します。(助教授 有本正生 記)



編集・発行

大阪薬科大学広報委員会

〒580 大阪府松原市河合2-10-15

TEL 0723 (32) 1015 (代表)

FAX 0723 (32) 9929